

Comove

取扱書・保証書

ご使用の前に必ずこの取扱書をお読みください。
読み終わった後は紛失しないよう大切に保管ください。



TOYOTETSU

知っておいていただきたいこと	3
本書の見方	4
イラスト目次	6

1 取扱説明

1-1. 安全に使用するために	
安全に使用するために	14
警告音	20
1-2. 装備の使いかた	
キー	21
電源の ON/OFF	22
装備の使いかた	24
1-3. 乗車・降車するときは	
乗り降りの前に	26
乗車するとき	27
降車するとき	28
1-4. 走行するときは	
走行の前に	29
走行中の注意	41
前進のしかた	44
後退のしかた	45
停止のしかた	46
駐車のしかた	47
電磁ブレーキの 解除のしかた	48
1-5. 充電するときは	
バッテリーの取扱い	49
バッテリーの取付け / 取外し	51
バッテリーの充電方法	54

1-6. こんなときは	
走行練習するとき	58
手押しで移動するとき	60
お手入れするとき	62
保管するとき	63
運搬するとき	64
廃棄するとき	67
困ったときの対処	68
1-7. 緊急事態を回避するときは	
転倒したとき	71
踏切で動けなくなったとき	72
横断歩道で動けなくなった とき	73

2 点検

2-1. 点検について	
点検の必要性	76
点検項目	77
2-2. 使用前点検	
使用前点検	80
使用前点検の記録	82
2-3. 1 年点検	
1 年点検	83
1 年点検の記録	85

3 仕様情報

3. 仕様情報	
寸法	88
諸元	89

4 さくいん

五十音順さくいん

1

2

3

4

5

5 保証

5. 保証

保証について	98
保証書	99
保証登録書	104

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

車の仕様変更により本書の内容やイラストが一部異なる場合がございますがご了承ください。

本書の見方



警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

お守りいただかないと、モビリティや装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



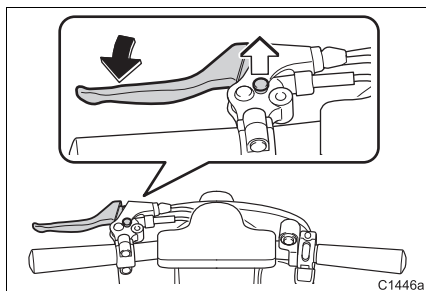
操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。



押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。



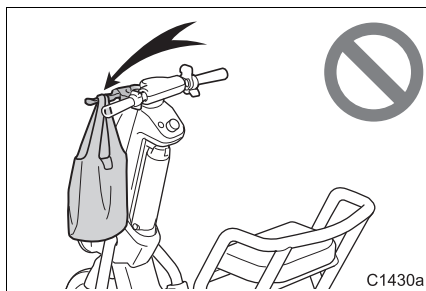
フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。



“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



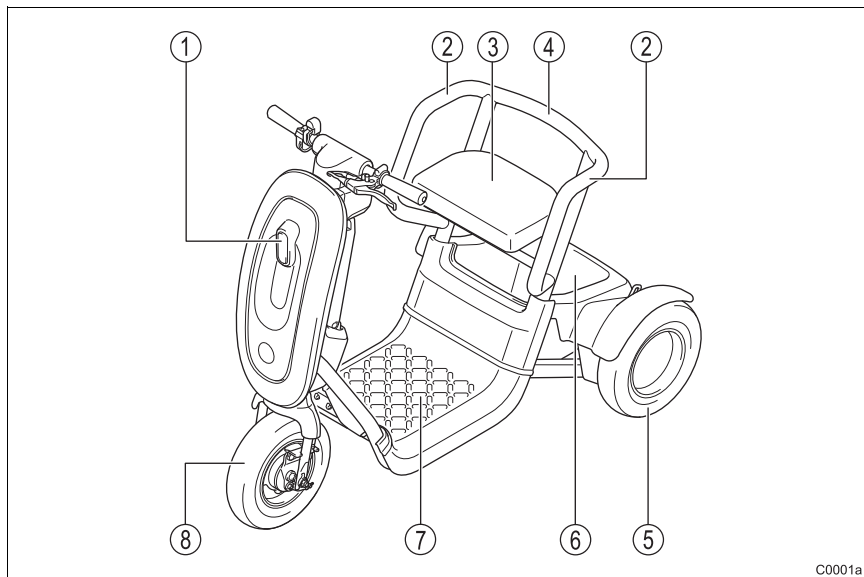
知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト目次

■ 外観

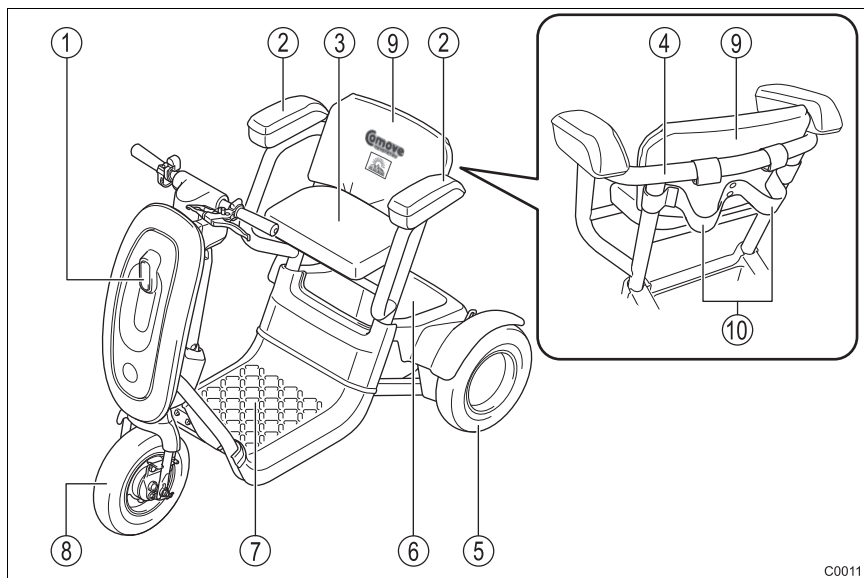
▶ 標準仕様



C0001a

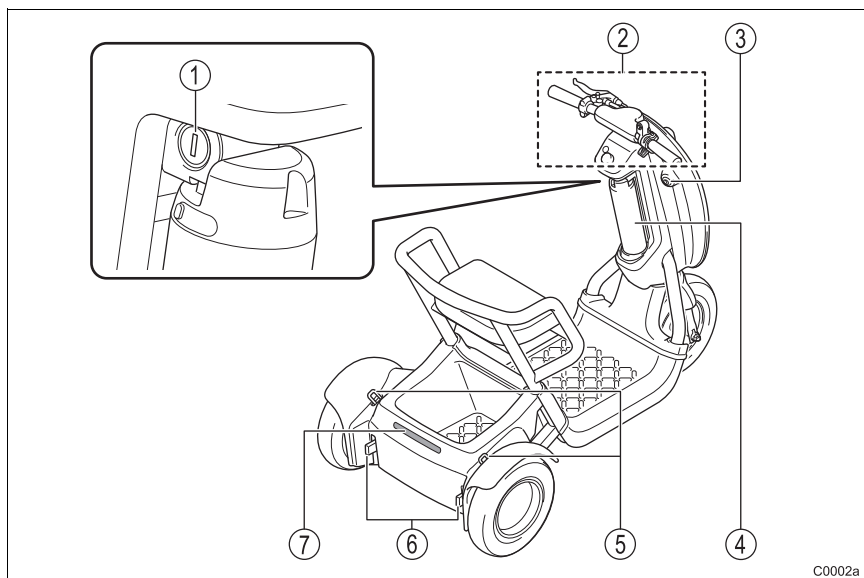
- | | |
|----------------|-------|
| ① 前照灯..... | P. 22 |
| ② アームサポート..... | P. 64 |
| ③ シート | |
| ④ バックサポート..... | P. 64 |
| ⑤ 後輪（駆動輪） | |
| ⑥ ラゲージ..... | P. 24 |
| ⑦ ステップ..... | P. 29 |
| ⑧ 前輪（操舵輪） | |

▶ 福祉仕様



C0011

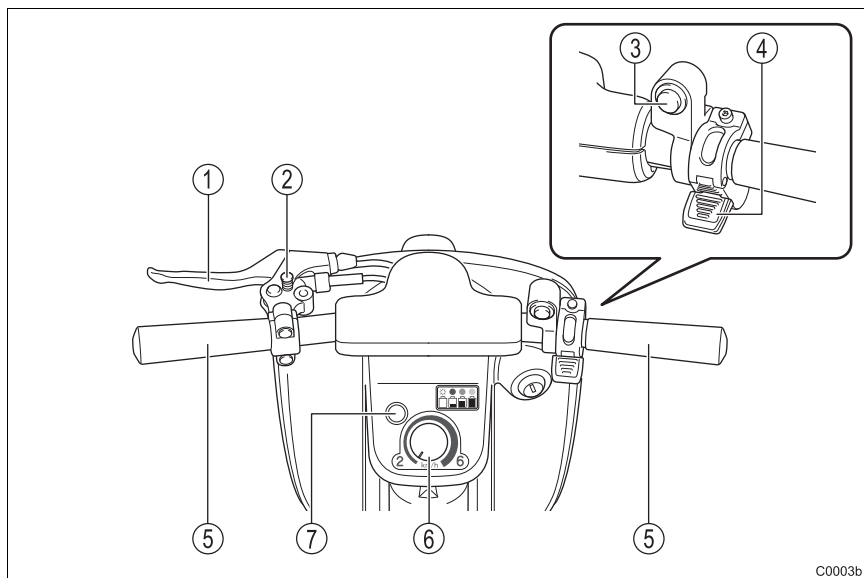
- ① 前照灯..... P. 22
- ② アームサポート..... P. 64
- ③ シート
- ④ バックサポート..... P. 64
- ⑤ 後輪（駆動輪）
- ⑥ ラゲージ..... P. 24
- ⑦ ステップ..... P. 29
- ⑧ 前輪（操舵輪）
- ⑨ 杖ホルダー付き背もたれカバー..... P. 24
- ⑩ 杖ホルダー..... P. 24



C0002a

① バッテリーロック	P. 51
② ハンドル部	P. 9
③ 電源スイッチ	P. 22
④ バッテリー	P. 49
⑤ ラゲージネット固定フック	P. 24
⑥ 電磁ブレーキ解除レバー	P. 48
⑦ 反射板	

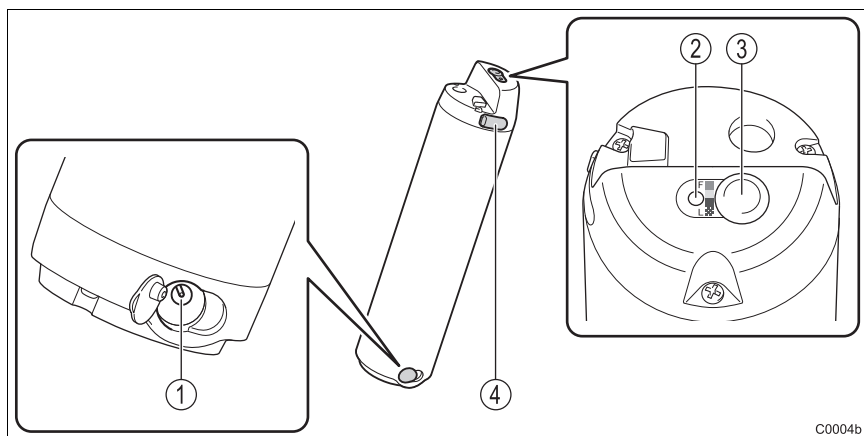
■ ハンドル部



C0003b

- ① ブレーキレバー.....P. 46
- ② パーキングブレーキ ノブP. 47
- ③ バックボタンP. 45
- ④ アクセルレバー.....P. 44
- ⑤ ハンドル.....P. 27, 29
- ⑥ 速度切りかえダイヤル.....P. 31
- ⑦ 作動表示灯P. 22

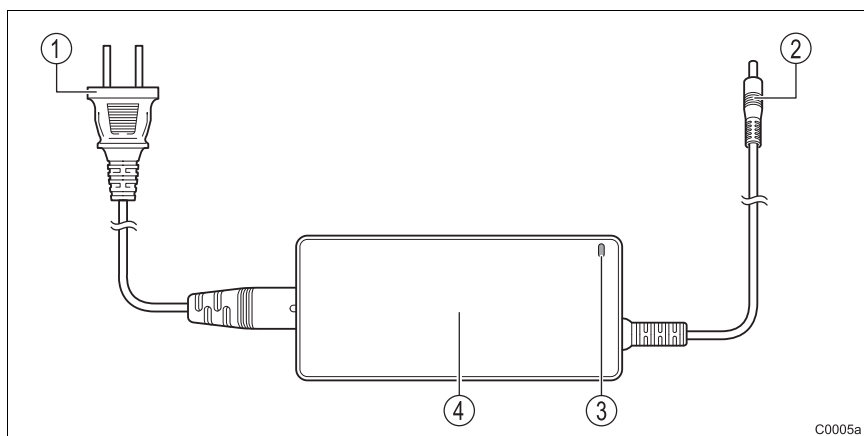
■ バッテリー



C0004b

- ① バッテリー側充電コネクター.....P. 56
- ② 電池残量表示 LEDP. 30
- ③ 電池残量表示ボタンP. 30
- ④ USB ポート（出力のみ）.....P. 90

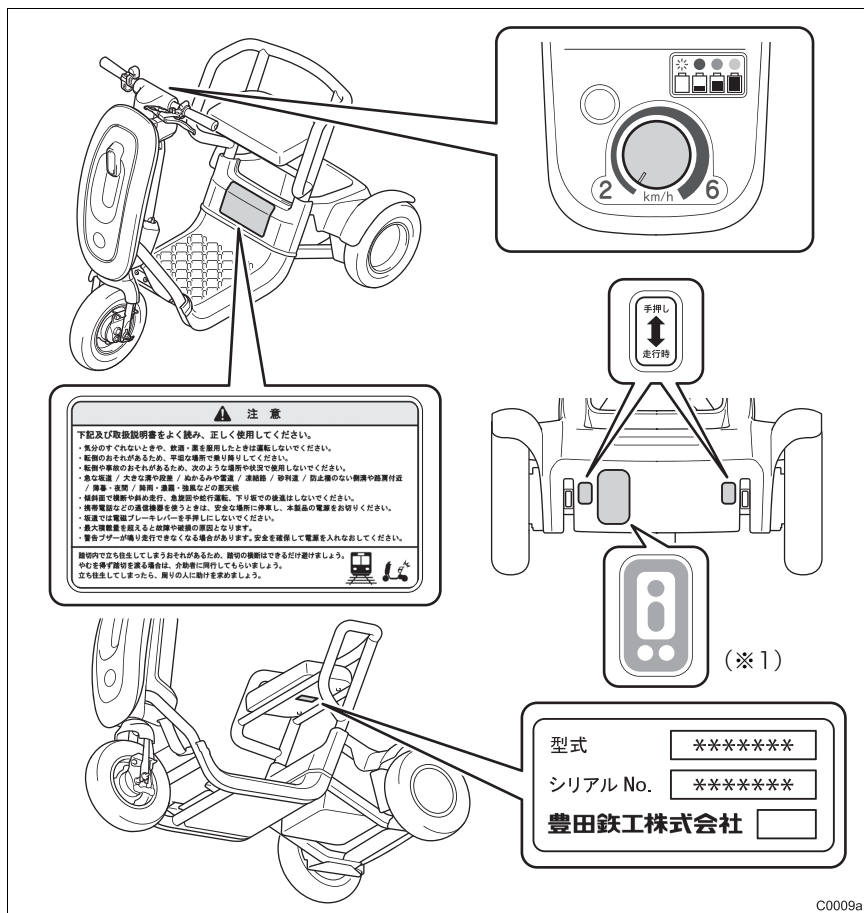
■ 充電器



C0005a

- ① プラグ.....P. 56
- ② 充電コネクター.....P. 56
- ③ インジケーター.....P. 56
- ④ 充電器.....P. 56

■ ラベル



警告

(※1) 移動用小型車標識は道路交通法により貼付が義務付けられています。絶対に剥がさないでください。万が一剥がれた場合や破損した場合はお買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

注意

●ラベルを剥がさないでください。

モビリティおよびバッテリーには、走行や取り扱いに関する注意事項が記載されたラベルが貼られています。本書の内容と併せて参照してください。

1 取扱説明

1-1. 安全に使用するために

安全に使用するために.....	14
警告音.....	20

1-2. 装備の使いかた

キー.....	21
電源の ON/OFF.....	22
装備の使いかた.....	24

1-3. 乗車・降車するときは

乗り降りの前に.....	26
乗車するとき.....	27
降車するとき.....	28

1-4. 走行するときは

走行の前に.....	29
走行中の注意.....	41
前進のしかた.....	44
後退のしかた.....	45
停止のしかた.....	46
駐車のしかた.....	47
電磁ブレーキの 解除のしかた.....	48

1-5. 充電するときは

バッテリーの取扱い.....	49
バッテリーの取付け / 取外し.....	51
バッテリーの充電方法.....	54

1-6. こんなときは

走行練習するとき.....	58
手押しで移動するとき.....	60
お手入れするとき.....	62
保管するとき.....	63
運搬するとき.....	64
廃棄するとき.....	67
困ったときの対処.....	68

1-7. 緊急事態を回避するときは

転倒したとき.....	71
踏切で動けなくなったとき.....	72
横断歩道で動けなくなった とき.....	73

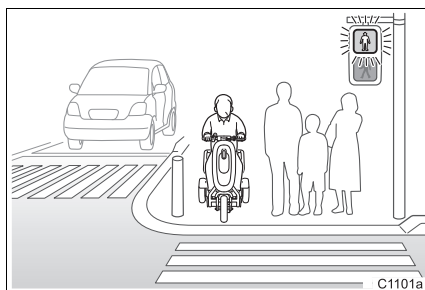
安全に使用するために

モビリティを安全にご使用いただくために、次のことをお守りください。

はじめに

モビリティ「COMOVE」は「移動用小型車」であり、道路交通法では歩行者と同様の扱いになります。運転免許は必要ありませんが、交通ルールやマナーを守り、安全な走行を心がけてください。

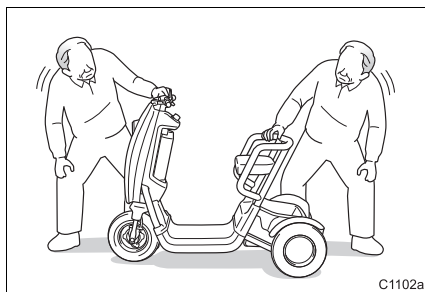
また、「移動用小型車」は自動車損害賠償補償法の対象となりません。交通事故時の対応のため、お客様自身で別途保険会社へご相談ください。



使用前の点検

モビリティを使用する前に必ず点検し、異常や破損がないか確認してください。異常や破損がある場合はモビリティの使用を中止し、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

点検方法については、P. 80 を参照してください。



安全上のご注意**警告**

▲本体やバッテリー、充電器に故障や異常があるときは使用しないでください。

感電、発火、ケガや事故の原因となることがあります。

▲充電コードやプラグに傷や変形があるときは使用しないでください。

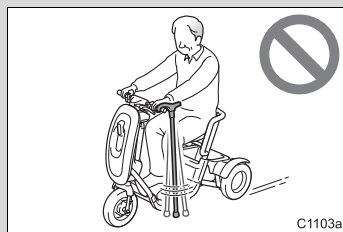
感電、発火の原因となることがあります。

▲火気の近くに置かないでください。

熱による破損や故障の原因となります。

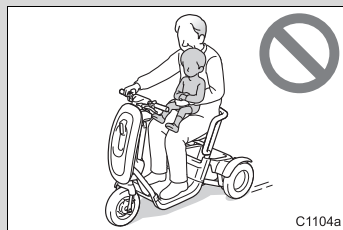
▲ハンドルに傘や杖をかけないでください。

転倒や破損の原因となることがあります。



▲このモビリティは 1 人乗りです。お子さまと一緒に乗るなど、2 人以上で乗車しないでください。

ケガや事故の原因となることがあります。

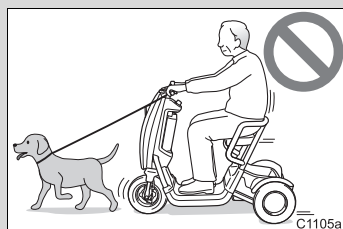


警告

- ▲犬などのペットを引いて走行しないでください。また、リードを手に持ったり、モビリティにつないだりしないでください。

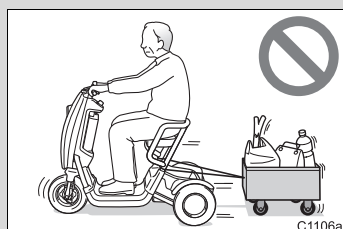
また、ペットをラゲージに入れたり、抱きかかえたり、膝や足もとに乗せて走行しないでください。

ケガや事故の原因となることがあります。



- ▲荷物のけん引をしないでください。

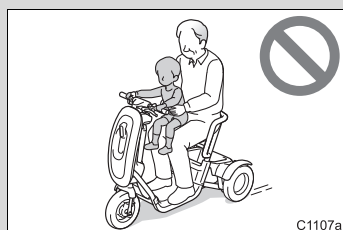
ケガや事故の原因となることがあります。



- ▲モビリティは遊具ではありません。子供※に運転させないでください。

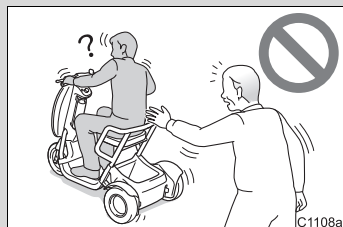
ケガや事故の原因となることがあります。

※：16才未満



- ▲モビリティを他の人に操作・運転させないでください。

他の人に操作させるときは、十分な説明や適切な指示が必要です。



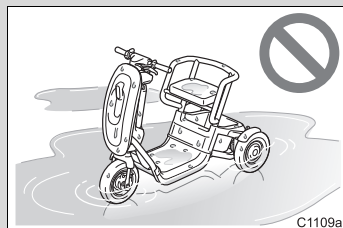
- ▲やむを得ない場合を除き、急ハンドル、急停止等の急な操作をしないでください。

転倒や事故、破損、故障の原因となります。

警告

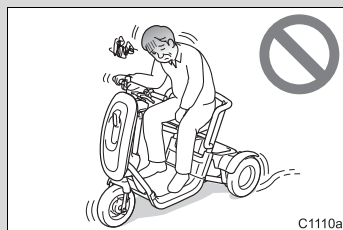
- ▲台風や洪水でモビリティが水につかった場合は、使用しないでください。

感電や発火のおそれがあります。電源スイッチを操作せず、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。



- ▲次のときは、モビリティを使用しないでください。

- ・体調がすぐれないとき
- ・正しい運転姿勢が取れないようなけがをしているとき
- ・飲酒したとき
- ・眠気をもよおす薬を飲んだとき
- ・疲れを感じたとき



注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。

- ▲乗員の体重と着衣および荷物の合計が 100kg をこえる場合は、使用しないでください。

バランスを崩して転倒しやすくなったり、モビリティが故障・破損したりするおそれがあります。

- ▲身長が 140cm 未満の方、または 185cm をこえる方は、使用を控えてください。

正しい運転姿勢がとれず、運転操作に支障が出ることがあります。

！ 警告

▲歩行者用標識や信号を守ってください。



C1113a

▲横断歩道では一時停止して安全を確認してください。

植込み型心臓ペースメーカーなどをご使用の方へ

植え込み型心臓ペースメーカー、植え込み型両心室ペーシングパルスジェネレーター及び植え込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、本製品およびその付属品（充電器を含む）が発する電磁波により機器に影響を受ける可能性があります。ご使用に際して、心臓ペースメーカーと製品の間に安全な距離を保つか、医師またはペースメーカー製造元にご相談ください。

！ 警告

▲充電時には充電器や充電コードに植込み部を近づけないでください。
充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

修理・改造について

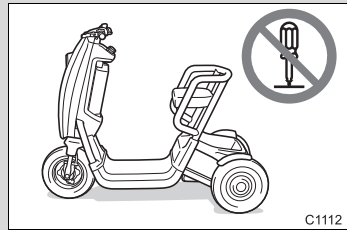
ご自身でモビリティを修理・改造しないでください。ご自身で修理・改造された場合は、保証を得られなくなります。

使用者または介助者が扱うヒューズの交換はありません。修理・改造が必要な場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

警告

▲ご自身で修理や改造をしないでください。

安全性を低下させ、事故や故障の原因になります。



警告音

モビリティには下記の警告音が装備されています。

警告 重大な事故やけがに繋がる可能性があります。

注意 車両の不具合や劣化に繋がる可能性があります。

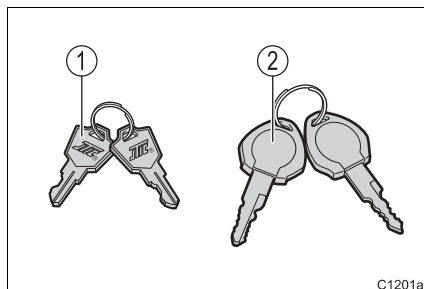
シーン	警告音	警告名	内容	対処
警告	ピー・ピー	後退時警告音	後退していることを知らせるため、後退時は断続的に警告音が鳴ります。	周囲の安全を確認して走行してください。後退中は、警告音が消えません。
	プププ・プププ	急斜面警告音	路面角度が3°以上と検知した時、速度を自動で減速します。また、5°以上の斜度に対しては警告音が鳴ります。	安全に注意して平地へ移動してください。走行時、5°以上の斜度を検知している間は警告音が消えません。
	ピピピ ピピ	車両異常警告音	車両の異常を検知すると警告音が鳴ります。	走行中の場合はハンドブレーキを使用して、周囲の安全を確かめ、通行の妨げにならない場所にモビリティを停止してください。電源スイッチを OFF にすると警告音が消えます。(→ P. 22)
	カンカン	充電量喚起音	バッテリーの充電残量が30%以下になると警告音が鳴ります。	ただちに充電してください。
注意	ピロピロ ピロピロ ピロ...	車両放置警告音	電源 ON の後、約2分間操作がされなかったとき、警告音が鳴ります。	アクセルレバー、バックボタンの操作、もしくは電源を OFF にすると警告音が消えます。
	ブブー	誤操作警告音	誤った操作（電磁ブレーキ解除レバーが「手押し」の位置にあるときアクセルレバーを操作する等）を検知すると警告音が鳴ります。	誤操作が解消されると警告音が消えます。

※ 通常使用時に警告音が鳴らない等の異常があれば販売店へお問い合わせください。

キー

お客様へ次のキーをお渡しします。

- ① 電源キー
電源の ON/OFF (→ P. 22)
- ② バッテリーロックキー
バッテリーの脱着 (→ P. 51)



⚠ 注意

- ▲ モビリティの盗難を防ぐために
キーはモビリティと別の場所で保管してください。

電源の ON/OFF

電源を入れる

電源スイッチを ON にする

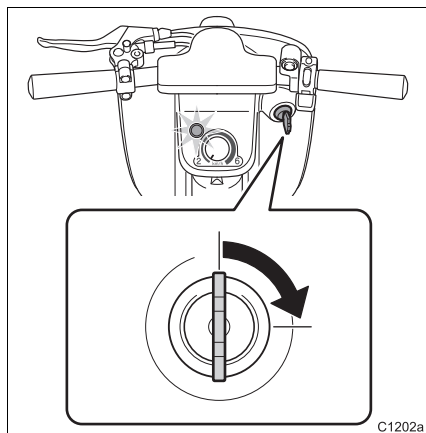
電源キーを時計回りにキーが止まる位置まで回してください。

作動表示灯が緑色で点灯した後、青、赤に変化し、現在のバッテリー残量の色で点灯します。

約 3 秒後に起動音が鳴り、モビリティが走行できるようになります。

アクセルレバー、またはバックボタンを押した状態で電源を ON にしても走行出来ません。

電源 ON の後、約 2 分以内にアクセルレバー、バックボタンまたはブレーキレバーの操作をしなかったときは警告音が鳴ります。(→P.20)

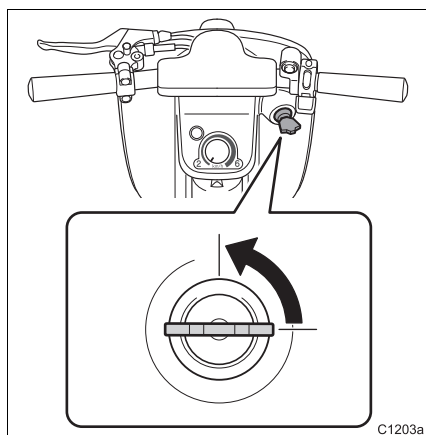


電源を切る

電源スイッチを OFF にする

電源キーを反時計回りにキーが止まる位置まで回してください。

作動表示灯が消灯したことを確認してください。



知識

■ 前照灯について

電源スイッチを ON にしたとき、前照灯は常に ON になります。

■ 作動表示灯のバッテリー残量表示について

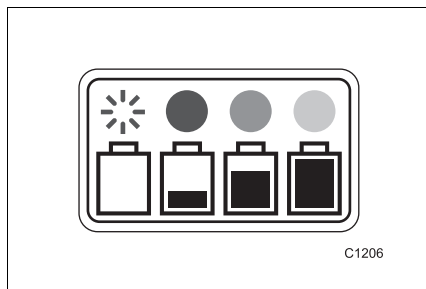
電源が ON のとき、作動表示灯の色でバッテリーの残量をお知らせしています。

青色の点灯：バッテリー残量が
約 80 ～ 100%

緑色の点灯：バッテリー残量が
約 50 ～ 80%

赤色の点灯：バッテリー残量が
約 30 ～ 50%

赤色の点滅：ただちに充電してください



装備の使いかた

旋回時速度抑制機能

ハンドルの操舵角度に応じて速度を自動減速する機能です。

急斜面検知機能

路面角度が 3° 以上と検知した時、速度を自動で減速します（上り坂は設定速度を維持）。また 5° 以上の斜度に対しては警告音が鳴ります。（→P. 20）

ラゲージ

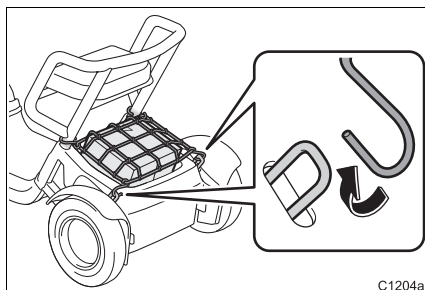
モビリティのシート下には、荷物置き場（ラゲージ）があります。

積載限度を超えて使用しないでください。

・積載限度（荷物のみ）：20kg

※ 使用者と荷物の合計は100kgまで
市販のネットを利用する場合は、ラゲージネット固定フックとバックサポートの支柱にフックを固定してください。

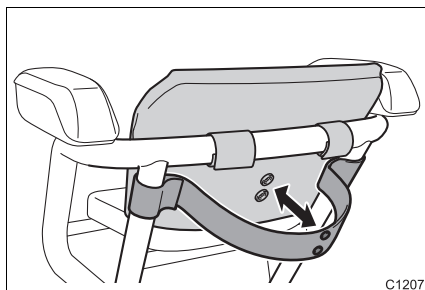
※ ラゲージネットはオプション装備です。



C1204a

杖ホルダー付き背もたれカバー（福祉仕様）

多点杖をご利用の際は中央のフックをはずして収納します。（走行前にフックを取り付けてください。）



C1207

 警告

▲杖ホルダーは杖または傘を収納をするためのものです。目的以外の用途に使用しないでください。

 注意

▲本品は縫製品のため無理な力を加えたり引張ったりすると、破損するおそれがあります。

▲鋭利なものを生地当てると、破れるおそれがあります。

▲背もたれカバー・杖ホルダーは消耗品のため経年使用により破損等がおきます。

定期的に点検を行い、不具合が見られた場合はご使用を控えてください。製品のご購入についてはお買い上げ販売店または取扱販売店にご相談ください。

 知識**■ お手入れ方法**

- 汚れた場合は、布などで汚れを拭き取ってください。
- ガソリン・ベンジン等の有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤は使用しないでください。変形やしみの原因になります。

乗り降りの前に

⚠ 警告

▲乗車、降車は電源 OFF の状態で行ってください。

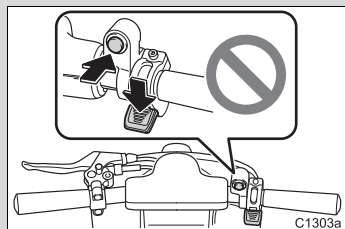
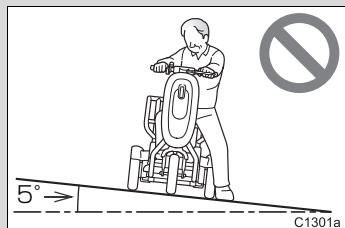
▲できるだけ平坦で安定した場所で乗降してください。

傾斜地や不安定な場所で乗降すると、意図せずモビリティが動き出したり、バランスを崩したりするおそれがあります。

▲約5° をこえる斜面では、より転倒しやすくなるため、乗降しないでください。

▲ブレーキレバーをしっかり握って乗車してください。

このとき、アクセルレバーやバックボタンにふれないでください。モビリティが急に動くおそれがあります。

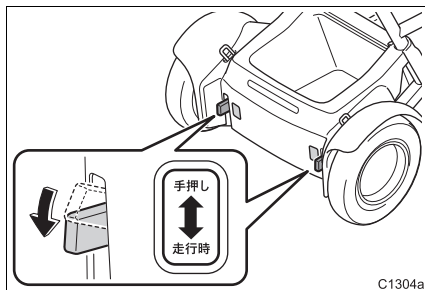


乗車前の確認

電磁ブレーキ解除レバーの位置を確認する

レバーが下がっている（「走行時」の位置）ことを確認します。

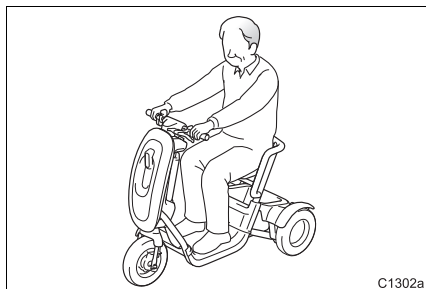
手押し時以外はレバーを「走行時」の位置にしてください。



乗車するとき

- 1** ハンドル、およびブレーキレバーをしっかり握り、ゆっくり座席に座る

オプションのバックミラーを装着している場合は、正しい姿勢で座り、バックミラーを調整してください。



- 2** 電源スイッチを ON にする

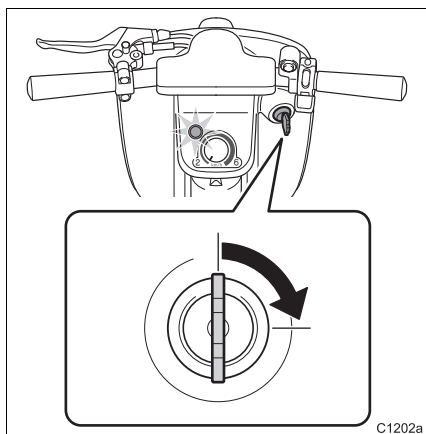
電源キーを時計回りにキーが止まる位置まで回してください。

作動表示灯が緑色で点灯した後、青、赤に変化し、現在のバッテリー残量の色で点灯します。

約 3 秒後に起動音が鳴り、モビリティが走行できるようになります。

アクセルレバー、またはバックボタンを押した状態で電源を ON にしても走行出来ません。

電源 ON の後、約 2 分以内にアクセルレバー、バックボタンまたはブレーキレバーの操作をしなかったときは警告音が鳴ります。

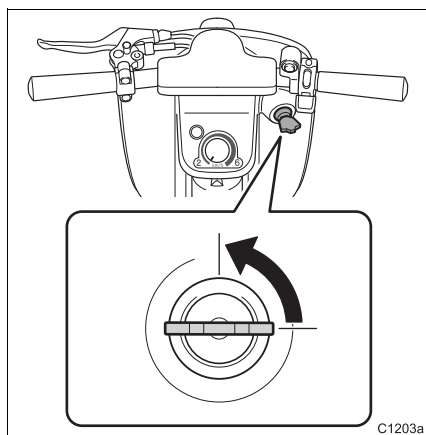


降車するとき

1 モビリティを完全に停止させる

2 電源スイッチを OFF にする

電源キーを反時計回りにキーが止まる位置まで回し、作動表示灯が消灯したことを確認してください。



C1203a

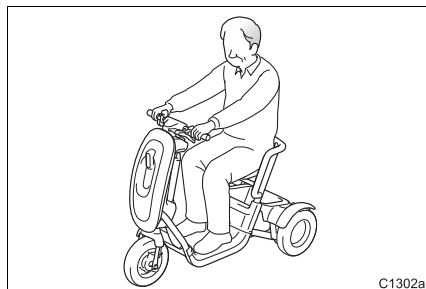
走行の前に

走行する前に

モビリティに乗車して正しい運転姿勢をとり、ハンドルを左右に操作して操作に支障がないか確認してください。また、アクセルレバーやブレーキレバーが確実に操作できるか確認してください。運転操作に支障がある場合は、点検要領に沿って点検を実施してください。(→ P. 77)

正しい運転姿勢

ステップに両足を乗せ、ハンドルの左右両側のグリップ中央をしっかり握り、まっすぐ座ってください。



バッテリー残量と走行距離の確認

バッテリー残量が 100%の時に走行できる距離は約 12 kmです。お出かけの際はバッテリー残量を確認し、帰宅できる走行距離を確認してください。

※ 常温、使用者体重 60kg、満充電のバッテリーで平坦な直線路を前進の最高速度設定で連続走行し、バッテリーが放電停止するまでの距離を示します。使用者の体重や路面状況により変化します。

■ バッテリー残量の確認方法

電池残量表示ボタンを約 1 秒押し続けると電池残量表示 LED が約 5 秒間点灯し、残量の目安を確認できます。

■ バッテリー残量の目安について

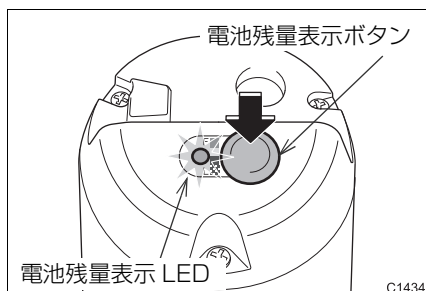
バッテリーの残量に応じて、電池残量表示 LED が次のように点灯します。

青色の点灯：バッテリー残量が約 86% 以上

緑色の点灯：バッテリー残量が約 66 ~ 86%

赤色の点灯：バッテリー残量が約 47 ~ 66%

赤色の点滅：バッテリー残量が約 47% 以下



C1434

□ 知識

■ バッテリーの種類

充電式リチウムイオンバッテリーを搭載しています。

■ バッテリーの特徴

リチウムイオンバッテリーは、正しく使用していても月日が経つと徐々に性能が低下していきます。新品時に比べ、走行できる距離は徐々に短くなっていきます。

また冬季など気温が低いときは、バッテリー残量が早く減る傾向がありますが、異常ではありません。使用後のバッテリーは満充電することを推奨しています。

■ バッテリー交換時期の目安

バッテリーには寿命があります。寿命はモビリティの使い方、走行条件により異なります。

同じような使い方をしていても、1 回の充電で走行できる距離が短くなった場合（バッテリーが新品のときの半分程度）は、バッテリーの交換が必要です。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

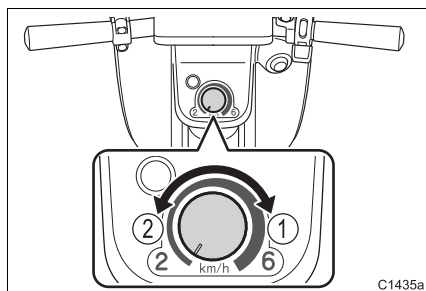
最大速度を設定する

ダイヤルをまわして最大速度を設定します。

① 最大速度を上げる

② 最大速度を下げる

最大速度は最大で 6km/h、最小で 2km/h となります。



交通機関や施設を利用するとき

事前に、使用する交通機関や施設の事業者にもビリティの乗り入れ可否を確認してください。また、電車などの乗り物に乗るときは、駅の係員に声をかけて安全確認や脱輪予防をしてください。

携帯電話や通信機器を利用するとき

携帯電話や無線通信機器などを使用するときは、安全な場所で停止し、電源スイッチを OFF にしてください。

道路や歩道に関するご注意

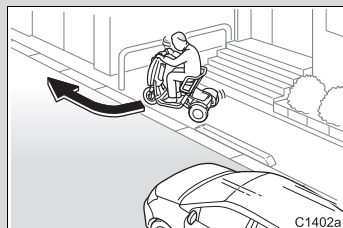
道路や歩道などを走行するときは、次のことにご注意ください。

警告

- ▲歩道のない場所は右側通行してください。



- ▲歩道が途切れたところや通行できない場合など、やむを得ず車道に出るときは、車や段差に注意してください。



- ▲混雑した場所や狭い場所では、特に周囲の状況に注意し、周りとの接触や衝突がないよう十分に速度を落としてください。また、モビリティでの走行が難しい場合は、無理に走行を続けず、モビリティから降りて押してください。

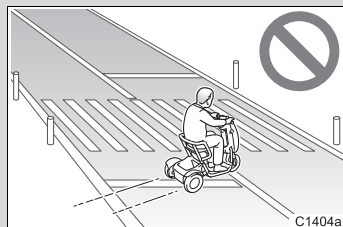


- ▲狭い場所や近くに人がいる場合は低速で通行してください。
- ▲交通量の多い道路は避けてください。

警告

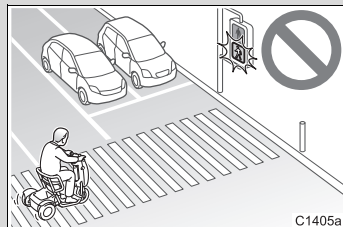
▲斜め横断しないでください。

渡りきるのに時間がかかり、他の交通の妨げになることがあります。



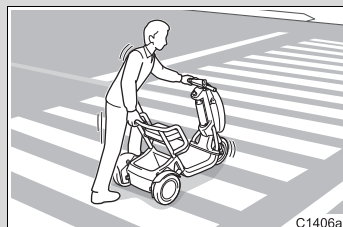
▲長い横断歩道は、次の青信号まで待ってください。

青信号の途中で渡り始めると、渡り切れない可能性があります。

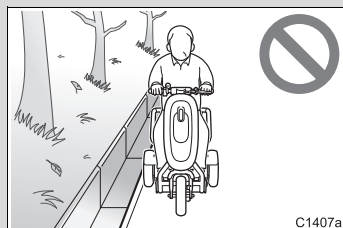


▲横断歩道で動けなくなったときは自力で脱出しようとせず、介助者や近くの人に大声で助けを求めてください。

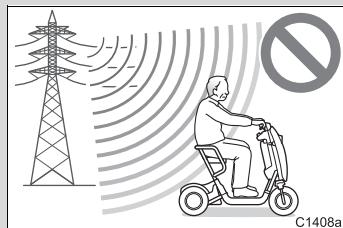
電磁ブレーキレバーを「手押し」位置に上げ、手押しで移動してください。



▲駅のホームの端、柵のない側溝、路肩付近を走行しないでください。



▲高圧線やテレビ塔などの強い電磁波が発生するところの近くでは、走行は避けてください。



警告

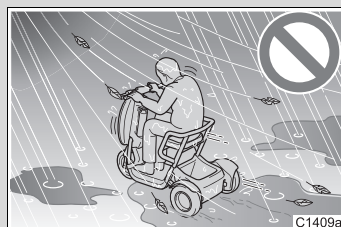
- ▲警告音が鳴り始めたら踏切や横断歩道に進入しないでください。
渡り切れない可能性があります。

天候や悪路に関するご注意

天候が悪い場合や路面状況が悪い場合はできるだけ走行を避けてください。

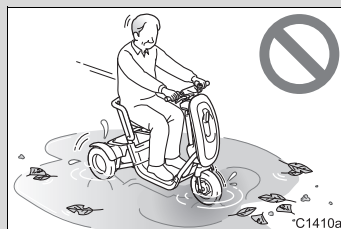
警告

- ▲大雨や強風、濃霧などの悪天候のときは、モビリティを使用しないでください。また、夜間など暗い場所でも使用しないでください。



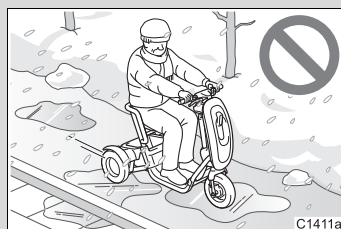
- ▲次のような場所は走行せず、迂回するかモビリティから降りて押してください。

- ・砂利・落ち葉などが多い場所
- ・凍結・積雪しているところ
- ・ぬかるみや深い泥などのあるところ
- ・深い水たまりのあるところ
- ・やわらかい砂地や草地
- ・ぬれた鉄板の上などのすべりやすいところ
- ・転落防止用の柵がない側溝や路肩付近



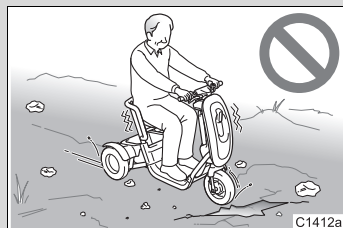
- ▲雪道、凍結路、氷点下では使用しないでください。

車輪が滑り安全に走行できなくなります。

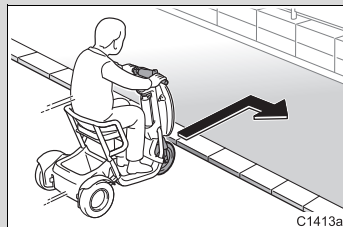


警告

- ▲凹凸のある路面では、路面からの衝撃でバランスを崩したり、ハンドルから手が離れたりすることがあります。無理に走行せず、モビリティから降りて押してください。

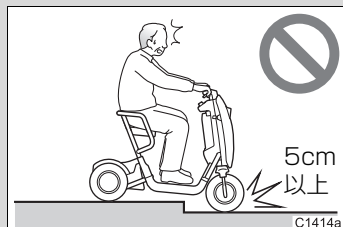


- ▲段差や溝を乗り越える場合には、前輪タイヤを段差や溝に直角にしてください。また、小さな段差や溝であっても、ハンドルを両手でしっかりと握ってください。



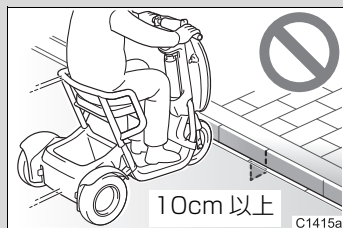
- ▲鋭角な段差や、5cm 以上の段差を走行しないでください。

転倒したり、モビリティが破損したりするおそれがあります。大きな段差を乗り越えるときは、モビリティから降りて持ち上げてください。(→ P. 64)



- ▲幅の広い溝（10cm 以上）は走行しないでください。

転倒したり、モビリティが破損したり動けなくなるおそれがあります。



坂道や傾斜に関するご注意

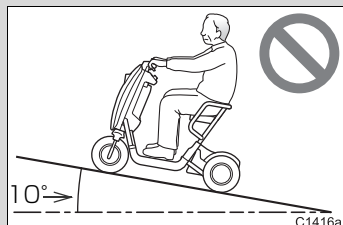
平坦路の走行にくらべてバランスを崩しやすくなるため、注意して走行してください。

警告

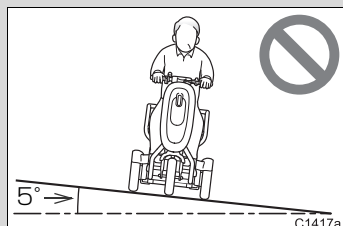
- ▲10° をこえる坂道では、使用しないでください。

転倒のおそれがあります。

走行中に急斜面に差しかかると、警告音が鳴り、モビリティの速度によっては自動で減速することがあります。その時は、ただちに引き返すか、安全な速度で平坦路に移動してください。



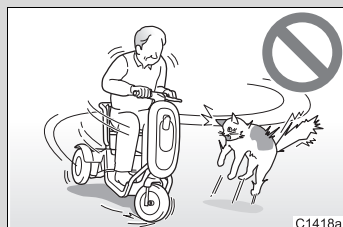
- ▲5° をこえる斜面では、より転倒しやすくなるため、乗降したり走行したりしないでください。



- ▲傾斜面を斜め走行・蛇行運転や急旋回したりしないでください。

バランスを崩し、転倒するおそれがあります。

- ▲傾斜面を横断するときは身体を斜面の山側（または上側）に傾けてバランスを取ってください。



- ▲傾斜面では上り下りとも、前進で真っすぐゆっくりと走行してください。

- ▲段差がある斜面は走行しないでください。

- ▲下り坂を長時間走行した場合、バッテリーの保護機能により、車両が停止する場合があります。停止した場合、直ちに走行を中断し、一旦、アクセルを OFF にし、慎重に方向転換をし引き返してください。

警告

▲急な上り坂を走行した場合、バッテリーの温度保護機能により車両が停止し、電源が OFF となる場合があります。電源スイッチを「OFF」にしてください。しばらく放置後、再度「ON」にしてください。一定温度まで下がると走行できます。

▲下り斜面に差しかかる前に、十分に減速してください。

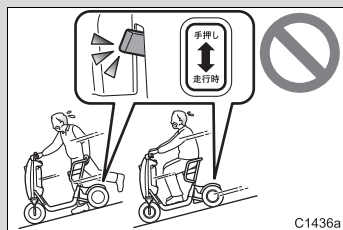
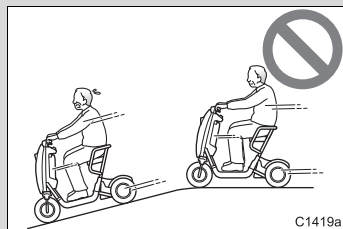
減速しないまま下り斜面を走行すると、速度調節が困難になるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

▲下り坂では速度を落とし、安全に注意して走行してください。

▲介助者が同行していても坂道で停止したままにしないでください。

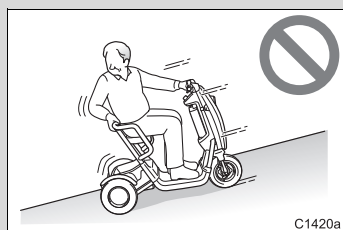
▲坂道で手押しをしたり、電磁ブレーキを解除したりしないでください。(→ P. 60)

電磁ブレーキがかからないため、思わぬ事故のおそれがあります。



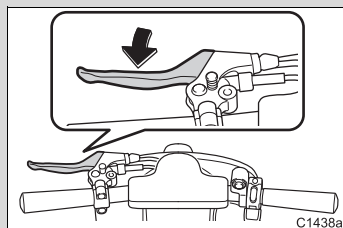
▲斜面をうしろ向きで下りないでください。

上っていた斜面を途中で引き返して下りる必要があるなどの場合は、いったん停止し、最低速度に設定してゆっくりリターンして方向転換したあと、前向きでゆっくり走行してください。



▲斜面で停車しているときは、手動ブレーキを使用してください。

手動ブレーキを使用しないと、状況によってはモビリティが意図せず動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。



踏切に関するご注意

踏切内で立ち往生する可能性があるため、踏切の横断はできるだけ避けてください。やむを得ず踏切を渡る場合は、次のことにご注意ください。

警告

▲できるだけ介助者に同行してもらってください。

▲踏切の手前で一時停止し、安全を確認してください。

▲警報機が鳴り始めているときや、遮断機が下り始めているときは、踏切内に入らないでください。

踏切を渡り切れない可能性があります。

▲横断に時間のかかる踏切は迂回してください。

踏切を渡り切れない可能性があります。

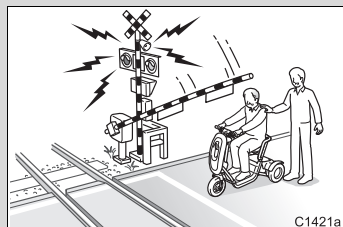
▲踏切内で停止しないよう速やかに横断してください。

▲踏切に入る前にバッテリーの残量を確認してください。

作動表示灯（→ P. 22）が赤色の場合は走行しないでください。

踏切を渡り切れない可能性があります。

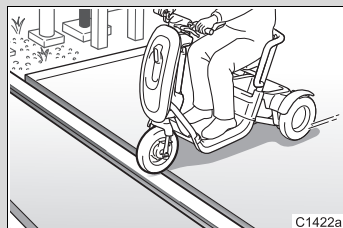
踏切を渡る場合は電磁ブレーキを解除し、手押しで移動してください。（→ P. 48）



警告

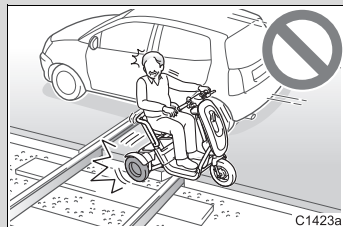
- ▲線路に対して直角に走行してください。

線路の溝にタイヤを取られないように注意してください。



- ▲踏切の端を走行しないでください。

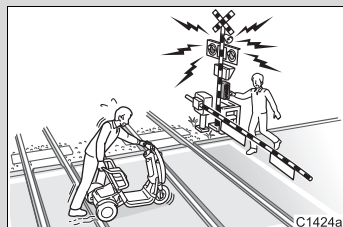
線路のすき間が大きく、タイヤが落ち込みやすくなります。



- ▲動けなくなったときは、自力で脱出しようとせず、介助者や近くの人に大声で助けを求めてください。

電磁ブレーキを解除し、手押しで移動してください。(→ P. 48)

- ▲万が一踏切内から脱出できない場合には、介助者や近くの人に協力してもらって踏切に設置してある非常停止ボタンを押してください。



タイヤの取り扱いについて

次のことをお守りください。

- タイヤのひび割れや損傷、異常な摩耗がある場合は販売店へお問い合わせください。
- タイヤにガソリン・有機溶剤・油類が付着したときは、すぐにふき取ってください。
- タイヤはストーブなどの熱源の近くに置かないでください。

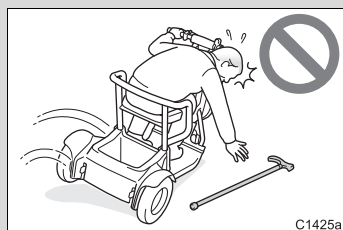
走行中の注意

他の歩行者や路面状況など、周囲の状況に常に注意を払い、安全に走行できるよう心がけてください。

警告

▲正しい姿勢で運転してください。

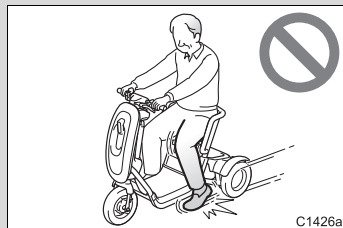
乗車中は体を前後左右に大きく傾けたり、片手で運転したりしないでください。バランスを崩して転倒しやすくなったり、モビリティが故障・破損したりするおそれがあります。



C1425a

▲走行中に手や足や身体を車体からはみ出さないでください。

車体と障害物の間に手や足や体を挟んだり、他の歩行者と接触するおそれがあります。



C1426a

▲走行中にステップに立ち上がらないでください。

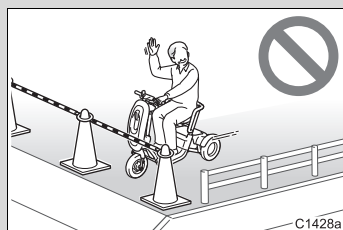
バランスを崩して転倒しやすくなったり、モビリティが故障・破損したりするおそれがあります。



C1427a

▲手放しや片手運転、わき見運転をしないでください。

思わぬ事故の原因になります。



C1428a

▲マフラーやコート等、車両に巻き込みが懸念される服装で乗車しないでください。

警告

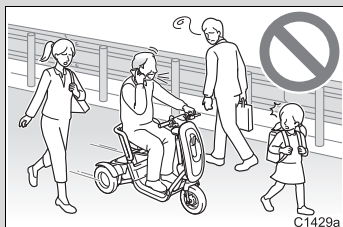
▲走行中はできるだけ、最高速度の設定を変更しないでください。

▲走行中は電源をOFFにしないでください。

急停止による転倒のおそれがあります。

▲走行中に携帯電話を使用しないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。

使用するときは安全な場所に停止し、電源スイッチをOFFにしてください。



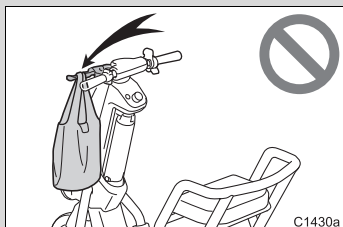
C1429a

▲走行中にイヤフォンやヘッドフォンを使用しないでください。

周囲の状況などへの注意が不十分になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

▲アクセルレバーやブレーキレバーにものをかけて走行しないでください。

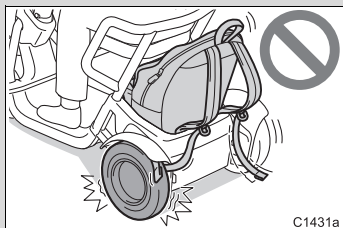
急加速や急停止の原因になります。



C1430a

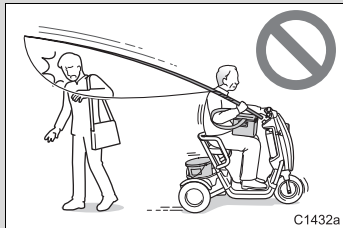
▲ラゲージから荷物をはみ出させないでください。

はみ出した荷物が接触したり、車輪に巻き込まれて思わぬ事故のおそれがあります。



C1431a

▲人にぶつかったり、運転操作の支障になったりするような荷物を持って走行しないでください。

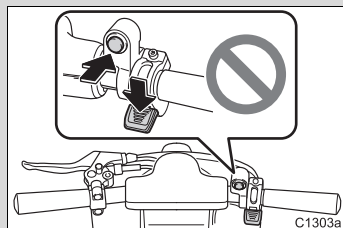


C1432a

警告

- ▲発進時以外アクセルレバーまたはバックボタンにふれないでください。

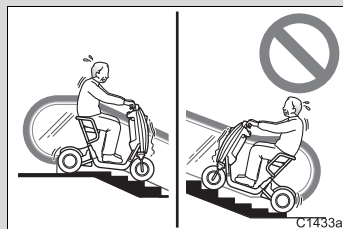
モビリティが意図せず動き出すおそれがあります。



- ▲裾の長い服はタイヤに巻き込まれるおそれがあるため、着用しないでください。

- ▲エスカレーターや階段でモビリティを使用したり、運搬したりしないでください。

万一バランスを崩すとモビリティが落下し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



- ▲方向転換する前に、十分減速してください。

モビリティの速度とハンドル切れ角によっては自動で減速する機能が作動しますが、機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながるおそれがあります。

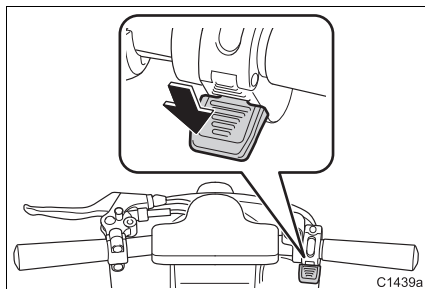
前進のしかた

- 1 周囲の安全を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する（→ P. 47）

- 3 左右両方のハンドルをしっかり握り、親指でアクセルレバーをゆっくり下に押す

走り出す際は、必ず振り返って後方を確認してください。

アクセルレバーをもどすとブレーキがかかり、モビリティが停止します。



方向転換するときは、体をまっすぐに保ったままハンドルを曲がりたい方向に切ってください。

モビリティの速度とハンドルの切れ角によっては、方向転換時にモビリティが自動で減速することがあります。

■ 自動減速機能

モビリティの速度とハンドル切れ角によっては自動で減速する機能が作動します。また、坂道を下る際によってはモビリティの速度を自動で減速する機能が働きます。

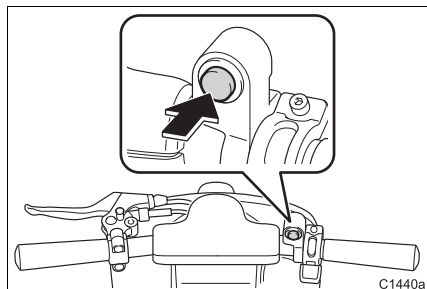
⚠ 警告

▲方向転換する前に、十分減速してください。

モビリティの速度とハンドル切れ角によっては自動で減速する機能が作動しますが、機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながるおそれがあります。

後退のしかた

- 1 周囲の安全を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する（→ P. 47）
- 3 左右両方のハンドルをしっかりと握り、親指でバックボタンを押す
モビリティが後退します。
バックボタンを離すとブレーキがかかり、モビリティが停止します。



警告

▲後退するときは体をひねった姿勢となり、バランスを崩しやすくなるため、特に注意してください。

知識

■ 後退時の警告音について

後退していることを知らせるため、後退時は断続的に警告音が鳴ります。

■ 後退時の速度について

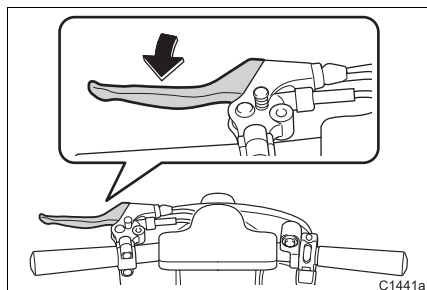
前進時の最大速度にかかわらず、約 1km/h で後退します。

停止のしかた

アクセルレバーまたはバックボタンをもどすとブレーキがかかり、モビリティが停止します。通常走行時は、アクセルレバーまたはバックボタンをもどしてモビリティを減速・停止させてください。走行中の緊急時、または停止中に必要に応じて手動ブレーキを使用してください。

■ 手動ブレーキ

ブレーキレバーを手前に引くと、前輪のブレーキがかかります。



⚠ 警告

- ▲アクセルレバーまたはバックボタンをもどしてからモビリティが停止するまでの距離は、走行条件によってかわります。余裕を持って停止できるよう心がけてください。
- ▲走行中にブレーキレバーを強く引くとモビリティが急停止して前のめりの姿勢になり、バランスを崩して転倒するおそれがあります。急ブレーキにならないような走行を心がけてください。

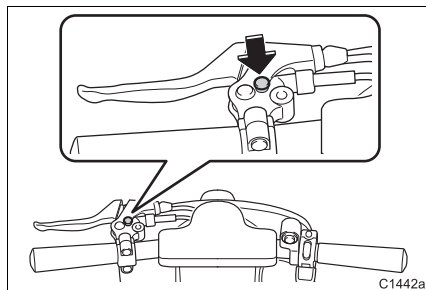
駐車のかた

停止中に必要に応じてパーキングブレーキをかけて、モビリティを駐車します。また、左右の電磁ブレーキ解除レバーが「走行時」（自動ブレーキがかかっている状態）になっていることを確認します。

■ パーキングブレーキ

ブレーキレバーを引いたままパーキングブレーキノブを押すと、手動ブレーキをかけたままにしておくことができます。駐車するときや、長時間停止するときに使用してください。

解除するときは、ブレーキレバーをさらに手前に引いてください。



⚠ 警告

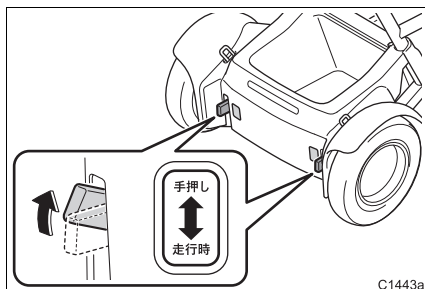
- ▲ 斜面や段差のある場所など、安定していない場所にモビリティを駐車しないでください。
モビリティが倒れたり、急に動きだしたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

電磁ブレーキの解除のしかた

電磁ブレーキ解除レバーが「走行時」(下側)になっているときは、自動ブレーキが効いており、モビリティを手動で動かすことはできません。

モビリティを手押しで動かす時は、後輪横の電磁ブレーキ解除レバーを左右両方とも「手押し」側に押し上げます。

電磁ブレーキ解除レバーを操作する時は、パーキングブレーキをかけてから操作してください。



知識

- 電磁ブレーキ解除レバーは左右同じ状態になるよう操作してください。

バッテリーの取扱い

警告

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、感電したり、発熱・発火して火災になったり、バッテリーが破裂したりするなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バッテリーについて

- ▲指定されたもの以外のバッテリーを使用したり、モビリティのバッテリーを他の機器で使用したりしないでください。
- ▲充電するときは、専用の充電器を使用してください。
- ▲火中に投入したり、加熱したりしないでください。
- ▲分解したり、改造したりしないでください。
- ▲釘などの先のとがったものを刺したり、衝撃を与えたりしないでください。
- ▲落下させないでください。
- ▲端子部分に金属製のものを接触させないでください。
- ▲火気の近くや、高温になるところ、直射日光のあたるところで使用したり、充電したり、放置したりしないでください。
- ▲水を入れたり、水中に投入したりしないでください。
バッテリーが水につかった場合はただちに使用を中止し、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。
- ▲傷が付いた状態で使用しないでください。
傷が付いているときは、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。
- ▲液体の付着やもれがある場合は、絶対にさわらないでください。
電解液が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- ▲電解液がもれている場合は、近付かないでください。
万一バッテリーが破損しても、内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

 警告**■充電器について**

- ▲分解したり、改造したりしないでください。
- ▲水でぬらしたり、衝撃を与えたりしないでください。
- ▲指定されたバッテリー以外を充電しないでください。
- ▲屋外で使用しないでください。
- ▲充電器にコードを巻き付けて保管しないでください。
- ▲水がかかる場所や湿気の多い場所、ほこりの多い場所で保管しないでください。

■電波がおよぼす影響について

植え込み型心臓ペースメーカー、植え込み型両心室ペーシングパルスジェネレーター及び植え込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、本製品およびその付属品（充電器を含む）が発する電磁波により機器に影響を受ける可能性があります。ご使用に際して、心臓ペースメーカーと製品の間に安全な距離を保つか、医師またはペースメーカー製造元にご相談ください。

 注意**▲バッテリーの故障を防ぐために**

- 電池残量表示 LED が赤色の状態になったら、バッテリーを放置せずに満充電にしてから保管してください。放置したままにするとバッテリーが故障する原因になります。
また、1ヶ月以上使用しない場合は、バッテリーを車両からはずして、満充電まで充電してから保管してください。使用していなくても3ヶ月に1回は、満充電まで充電してください。
- バッテリーを保管するときは、気温が約0～40℃、湿度が60%前後の屋内で保管してください。

▲プラグや充電コネクタを抜くとき

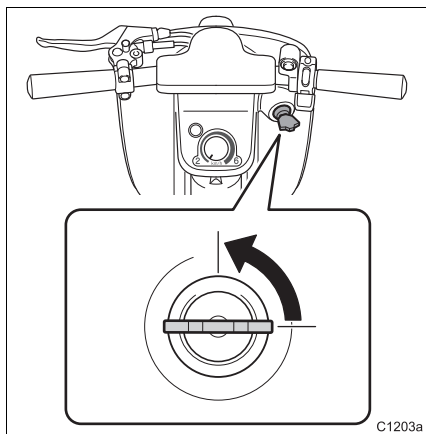
プラグまたは充電コネクタを持って抜いてください。コードを引っ張って抜くと、コードやプラグ・充電コネクタが破損するおそれがあります。

バッテリーの取付け / 取外し

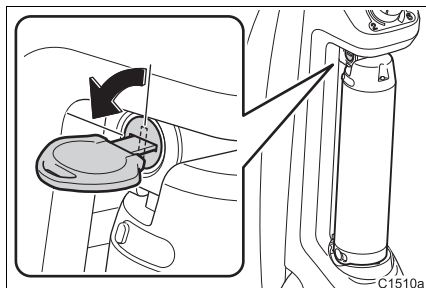
バッテリーを取りはずす

- 1** 電源スイッチが ON のときは、電源スイッチを OFF にする

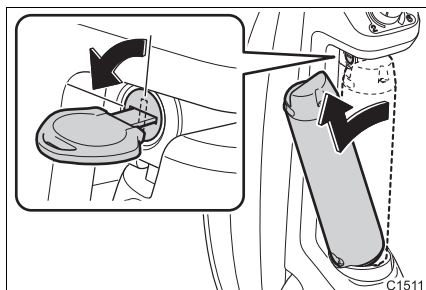
電源キーを反時計回りにキーが止まる位置まで回し、作動表示灯が消灯したことを確認してください。



- 2** バッテリーロックキーを挿入し、反時計回りにまわす



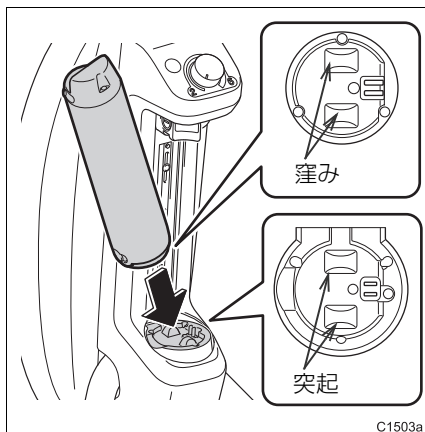
- 3** キーを回した状態のままバッテリーを車両左側に倒すように傾け、上方向に引き抜く



バッテリーを取り付ける

- 1** モビリティ側の突起にバッテリー下部の窪みを合わせながら、ゆっくりとバッテリーを挿し込む

バッテリーの底面が見える程度傾けて、下部のツメを合わせてください。傾きが浅いと位置が合わせにくくなる場合があります。

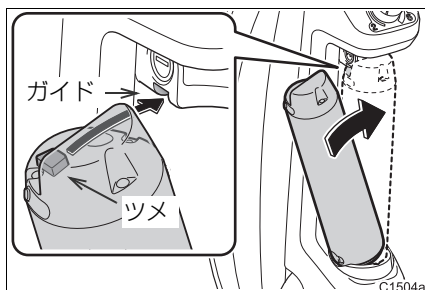


- 2** バッテリーを挿入する

モビリティ側のガイドにバッテリー上部のツメを合わせ、バッテリーの上部を、“カチッ”と音がするまで押し込み、バッテリーを固定する

バッテリーがうまくはまらない場合は、ツメをガイドの少し手前側から斜め奥に押し込むイメージでスライドさせてください。

取り付け後は、バッテリーが確実に固定されているか確認してください。



 警告

- ▲モビリティのバッテリー取り付け部分がぬれていないことを確認してください。
ぬれているときは、乾いた布でふき取ってからバッテリーを取り付けてください。
- ▲取り付け後は、バッテリーをロックして、確実に固定されているか確認してください。
また、確実に固定されていることを確認する前に電源スイッチを ON にしないでください。
確実に固定されていないと、走行中にバッテリーがはずれて落下し、けがをするおそれがあります。

 注意

バッテリーロックキーを差し込んだまま走行しないでください。

バッテリーの充電方法

バッテリーの充電は、モビリティからバッテリーを取りはずし、専用の充電器を使用して屋内で行ってください。

出荷時は、バッテリーの容量が少なくなっているため、モビリティを初めて使用するときや、1ヶ月以上使用していないときは、モビリティからバッテリーを取りはずし、専用の充電器で満充電まで充電してください。

■ 充電時間の目安

バッテリーが空の状態から約 4 時間で満充電になります。

バッテリーの温度などの条件により、充電完了までに必要な時間はかわります。

■ 充電に適した場所

非常に暑い場所または寒い場所では、正しく充電できないことがあります。次のような充電に適した場所で充電してください。

- 屋内
- 気温約 0 ~ 45℃
- 風通しのよいところ
- 直射日光のあたらないところ

■ 充電器のプラグをコンセントに挿し込むとき

火花が発生することがありますが、異常ではありません。

■ 充電中の留意事項

- 充電中は充電器とバッテリーが温かくなりますが、異常ではありません。
- テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
その場合は、場所をかえて充電してください。

 警告**■充電するとき**

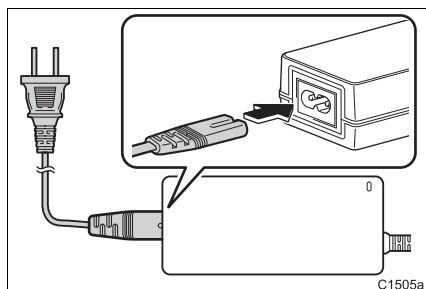
- ▲指定された充電器およびバッテリーを使用してください。
- ▲乳幼児の手の届く場所やペットがいる場所では、充電しないでください。
- ▲水がかかる場所や湿気の多い場所、ほこりの多い場所で充電しないでください。
- ▲平坦な安定している場所で充電してください。
机や台の上で充電する場合、充電器やバッテリーが落下しないように注意してください。
- ▲バッテリーが倒れて衝撃を受けるおそれがあるため、充電中はできるだけバッテリーを寝かせてください。
- ▲充電前に充電器のプラグ・充電コネクタやバッテリーのコネクタに変形・破損・腐食がないか、ほこり等の異物が付着していないか確認してください。
変形・破損・腐食がある場合は、充電しないでください。また、ほこり等の異物が付着している場合は、プラグや充電コネクタを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- ▲ぬれた手で充電しないでください。また充電器やバッテリーに水分が付着している場合は、乾いた布でふき取るなど、よく乾かしてから充電してください。
- ▲充電コネクタをバッテリーに挿し込むときは、手や指を挟まないように注意してください。
- ▲充電コネクタの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしないでください。
- ▲タコ足配線になっているなど、定められた容量をこえた配線器具を使用して充電しないでください。
- ▲プラグはコンセントにいっぱいまで挿し込んでください。
- ▲充電器のコードを束ねたり巻いたりした状態で充電しないでください。
- ▲充電器・充電器のコード・バッテリーにつまつかないように注意してください。
- ▲充電中は、充電器とバッテリーを布などで覆わないでください。
- ▲充電中は、引火のおそれがあるものを近付けないでください。

警告

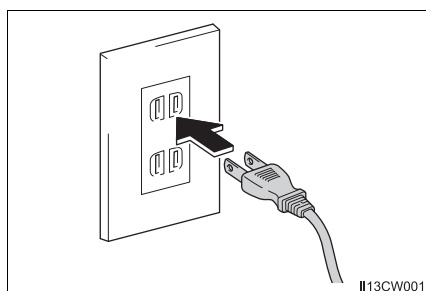
▲充電中に異音・異臭がしたり、煙が発生したりするなどの異常を感じたら、ただちにプラグをコンセントから抜いて充電を中止し、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

充電する

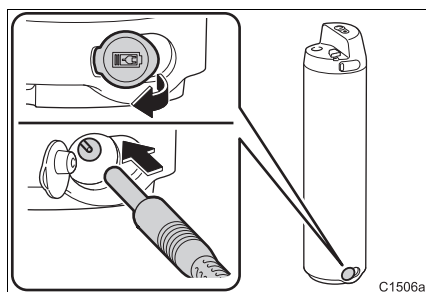
- 1 バッテリーを取りはずす
- 2 AC アダプターに電源コードを接続する



- 3 電源コードのプラグをコンセントに挿し込む

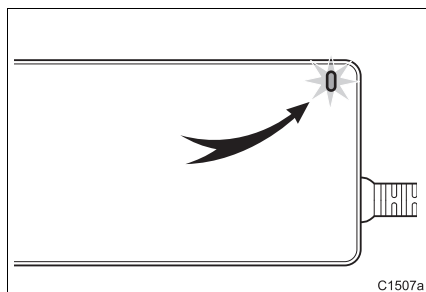


- 4 バッテリーの充電コネクター差し込み口のカバーをめくり、充電器の充電コネクターをバッテリーのコネクターに接続する
自動で充電が始まります。

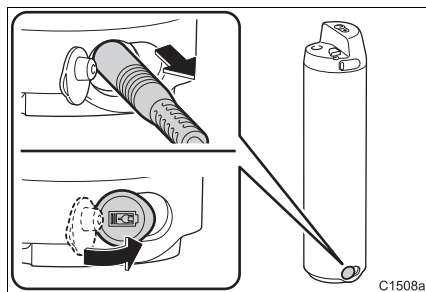


5 充電が開始したことを確認する

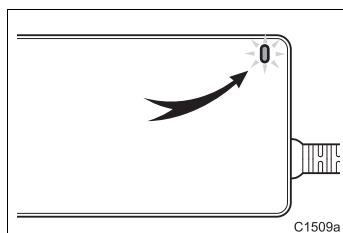
充電器のインジケーターが赤色に点灯していることを確認してください。

**6 充電を終了する場合は、充電コネクタバッテリーから取りはずす**

充電コネクタを取りはずした後、差し込み口のカバーを元に戻してください。

**7 電源コードのプラグをコンセントから取りはずす****■ 充電完了の確認方法**

充電器のインジケーターが緑色に点灯していることを確認してください。



走行練習するとき

走行練習する際は、「1. 取扱説明」の記載内容をよくお読みいただき、正しい取り扱い方法を十分ご理解の上、必ず介助者と一緒に行ってください。

⚠ 注意

- モビリティに乗車して正しい運転姿勢をとり、ハンドルを左右に操作して操作に支障がないか確認してください。また、アクセルレバーやブレーキレバーが確実に操作できるか確認してください。

運転操作に支障がある場合は、モビリティの使用を控えてください。

- 歩行者や障害物のない広い平坦な場所で練習し、モビリティの操作方法を覚えてください。
- 運転に慣れるまでは、公道を走行しないでください。

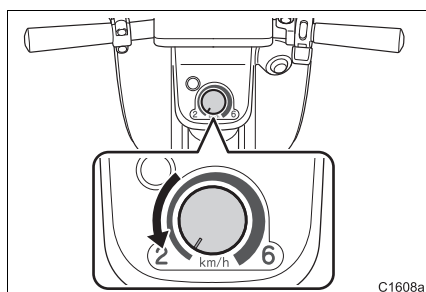
走行練習のしかた

初めて乗る際は、モビリティの取り扱いや走行に慣れるまで歩行者や障害物のない広い平坦な場所で練習し、モビリティの操作方法を覚えてください。

練習する際は速度切替ダイヤルを最低速度に設定し、徐々に最大速度を上げて速度に慣れてください。

- 1 電源を入れて、速度切替ダイヤルを左端「2」部まで回す。

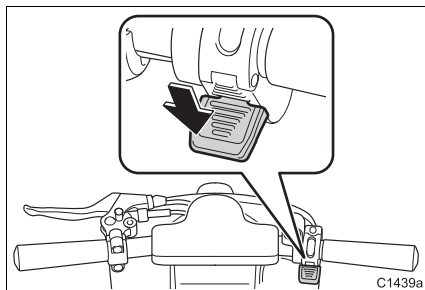
「2」は2km/h、「6」は6km/hです。



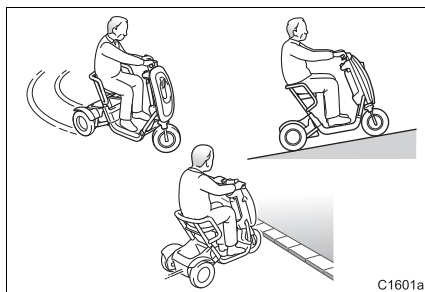
C1608a

- 2** 左右両方のハンドルをしっかり握り、親指でアクセルレバーをゆっくり下に押す

アクセルレバーの押し加減で、速度を調節することができます。また、アクセルレバーをもどすとブレーキがかかり、モビリティが停止します。

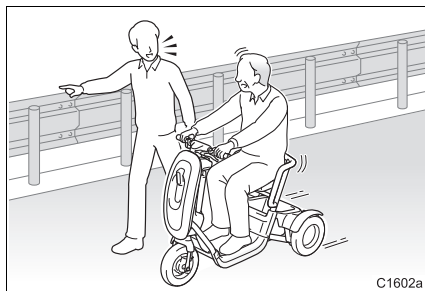


- 3** 旋回、緩い角度の傾斜地、段差の乗り越えを試し、少しずつ速度を上げて練習する



- 4** 運転感覚が身についたら、介助者と一緒に公道を走行する

初めて公道に出るときは、必ず介助者と安全を確かめながら走行してください。

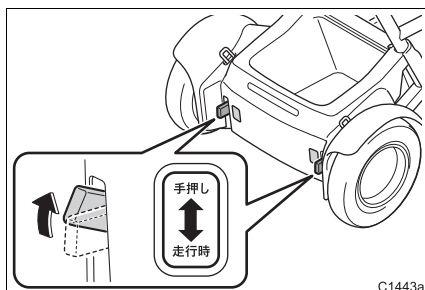


手押しで移動するとき

モビリティを手押しで移動するときは、モビリティから降りて、以下の方法で移動します。

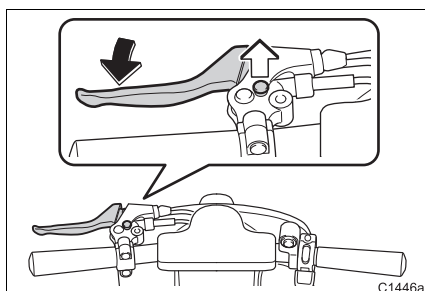
介助をする場合でも、使用者は降車し、人が乗っていない状態で手押し移動を行います。

- 1 モビリティを完全に停止させる (→ P. 46)
- 2 ブレーキレバーを握り、パーキングブレーキをかける (→ P. 47)
- 3 左右の電磁ブレーキを解除する (→ P. 48)



C1443a

- 4 パーキングブレーキを解除する
ブレーキレバーをさらに手前に引くとノブが上がり、パーキングブレーキが解除されます。



C1464a

- 5 ハンドルを持ち、バックサポートに手を当てて、モビリティを押して移動する



C1603a

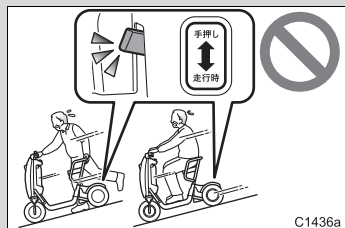
- 6 安全な場所に移動したら、モビリティを駐車する (→ P. 47)

駐車時は必ず左右の電磁ブレーキ解除レバーを「走行時」に戻し、自動ブレーキがかかった状態にします。

警告

▲坂道で手押しをしたり、電磁ブレーキを解除しないでください。

電磁ブレーキがかからないため、思わぬ事故のおそれがあります。



お手入れするとき

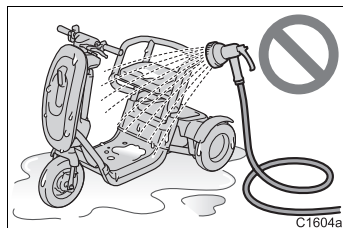
モビリティが汚れたときは、水またはぬるま湯を含ませた布を固くしぼり、汚れをふき取ってください。

⚠ 注意

- お手入れをするときは、電源スイッチを切ってください。

- ホースで水をかけて洗わないでください。

電子部品を損傷するおそれがあります。



- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次のものは使用しないでください。

- ・ ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性
またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
- ・ 洗剤やアルコール分を含んだもの
- ・ テープ等の粘着性のあるもの

- ワックスを使用しないでください。

運搬時に手がすべり、けがをするおそれがあります。

保管するとき

通常の保管

- モビリティは、次のような場所で保管してください。
 - ・ 平坦で安定しているところ
 - ・ 風通しがよく、湿気が少ないところ
 - ・ 屋根があり、雨つゆや直射日光が当たらないところ

長期の保管

- 1ヶ月以上使用しない場合は、バッテリーを車両からはずしてください。はずしたバッテリーは、満充電まで充電してから室内で保管してください。(→ P. 54)
- 長期間保管した後に使用するときは、必ずバッテリーを満充電まで充電してからご使用ください。(→ P. 54)

運搬するとき

モビリティの押し方

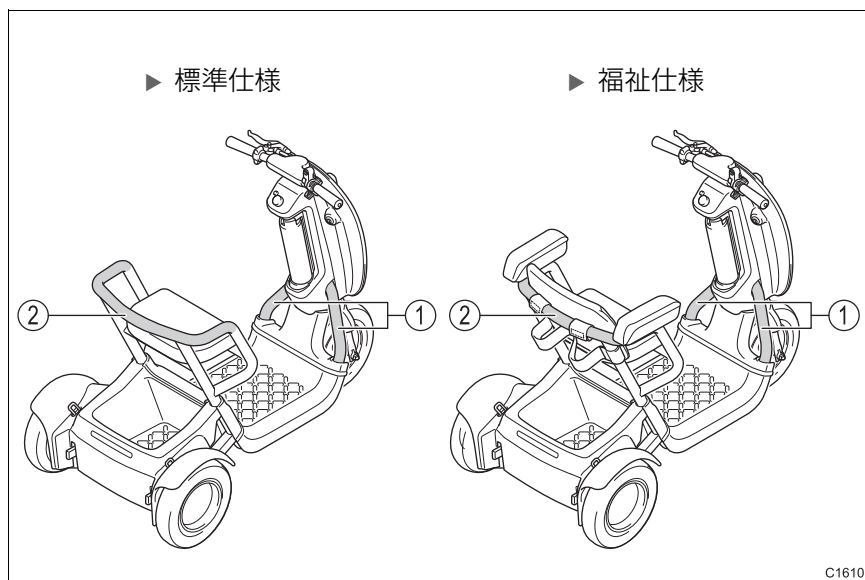
「手押しで移動するとき」(→ P. 60) の手順に従って押してください。

警告

▲降車した状態でアクセルを操作して移動させないでください。
転倒などのおそれがあります。

モビリティの持ち上げ方

電源スイッチを OFF にして、次の安全に持ち上げられる箇所を持って運んでください。



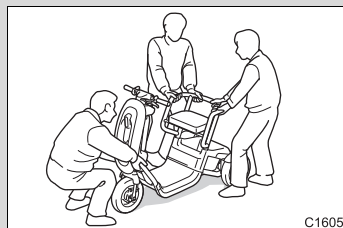
C1610

- ① フロント側フレーム部分
- ② アームサポートおよびバックサポートの上部

※ 福祉仕様は、バックサポートの上部のみ

警告

▲2人以上で作業してください。



▲フロント側フレーム部分・アームサポートおよびバックサポートの上部以外の箇所を持って持ち上げないでください。

※福祉仕様は、アームサポート部を持って持ち上げないでください。

モビリティが破損して落下し、思わぬ事故につながる原因になります。

▲持ち上げるときは荷物を降ろしてから行ってください。

持ち上げ中に荷物が落ち、思わぬ事故につながる原因となります。

モビリティの固縛

モビリティを運搬や輸送するために車両などに固縛するときは、フロント側フレーム部分・アームサポートおよびバックサポートの上部を使用して固縛してください。

※福祉仕様は、アームサポート部を固縛しないでください。

また、必ず電源スイッチを OFF にしてパーキングブレーキをかけ、左右の電磁ブレーキ解除レバーを「走行時」（自動ブレーキがかかっている状態）にします。（→ P. 47, 48）

傷が付くのを防ぐため、フロント側フレーム部分・アームサポートおよびバックサポートの上部に布などを巻いたり、保護材を置いたりするなどして保護してください。

モビリティを固縛したあとは軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。

 注意

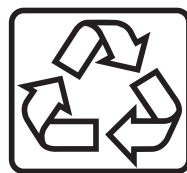
- フロント側フレーム部分・アームサポートおよびバックサポートの上部以外を使用して固縛しないでください。
- ※福祉仕様は、アームサポート部を固縛しないでください。
モビリティが破損するおそれがあります。
- 固縛に使用するひもやケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。
モビリティの損傷につながるおそれがあります。

廃棄するとき

環境保全および限りある資源を守るため、モビリティやバッテリーの廃棄については、お買い上げ販売店または取り扱い販売店に従ってください。

■ バッテリーの廃棄

バッテリーのほとんどの素材がリサイクル可能です。使用済みのバッテリーの廃棄については、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。



Li-ion

C1609

困ったときの対処

お困りの際は、次のことを確認してください。解決しない場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

走行前

症状	確認内容・対処方法
バッテリーが取り付けられない	モビリティ側の突起にバッテリー下部の窪みを合わせながら、ゆっくりとバッテリーを挿し込んでください。バッテリーの底面が見える程度傾けて、下部のツメを合わせてください。傾きが浅いと位置が合わせにくくなる場合があります。(→ P. 52)
電源スイッチを ON しても作動表示灯が点灯しない	電源スイッチを OFF にしてバッテリーを取りはずし、バッテリーの電池残量表示ボタンを約 1 秒押し続けてください。(→ P. 30) 電池残量表示 LED が赤色点灯している場合： → バッテリーを充電してください。(→ P. 54) 電池残量表示 LED が青色または緑色点灯している場合： → モビリティが故障しているおそれがあります。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。
発進しない	パーキングブレーキがかかっていますか？ → パーキングブレーキを解除してください。(→ P. 47) 電磁ブレーキが「手押し」になっていませんか？ → 左右の電磁ブレーキ解除レバーを「走行時」にしてください。(→ P. 48)

走行中

症状	確認内容・対処方法
車両が停止（惰性停止）	モビリティの保護機能が働いた、または故障のおそれがあります。まず車両を降り、電磁ブレーキ解除レバーを手押し側にし、安全な場所まで移動してください。その後、作動表示灯を確認してください。 ・ 作動表示灯が消灯 → 電源スイッチを OFF にしてバッテリーを取りはずし、バッテリーの電池残量表示ボタンを約 1 秒押し続けてください。 電池残量表示 LED が赤色点灯している場合： → バッテリーを充電してください。（→ P. 54） 電池残量表示 LED が青色または緑色点灯している場合： → モビリティが故障しているおそれがあります。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。
急斜面警告音が鳴っている	走行可能傾斜をこえているおそれがあります。安全に注意して平地へ移動してください。（→ P. 20）
平地でアクセルレバーを押し込んでも、最高速まで達しない	ハンドルをきっていませんか？ 旋回時速度抑制機能が働いています。ハンドルを直進にしても最高速度まで達しない場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。
車両異常警告音が鳴っている	ハンドブレーキを使用して、周囲の安全を確かめ、通行の妨げにならない場所にモビリティを停止してください。（→ P. 20）

停止時

症状	確認内容・対処方法
電磁ブレーキがかからない	左右の電磁ブレーキ解除レバー両方を走行側にしてください。(→ P. 48)
手で押しても動かない	電磁ブレーキにより動きません。手押しで動かしたい時は、左右の電磁ブレーキ解除レバー両方を手押し側にしてください。(→ P. 48) ※ 斜面での電磁ブレーキ解除レバーの操作は、控えてください。
	パーキングブレーキがかかっていませんか？解除してください。(→ P. 47)
電源が OFF できない	電源キーを左に回してください。 (→ P. 22)
バッテリーが外れない	バッテリーロックを解錠し、バッテリーを車両左側に倒すように傾け、上方向に引き抜いてください。 (→ P. 51)

充電できない

症状および確認内容	対処方法
充電器のプラグはコンセントにしっかり挿し込まれていますか？バッテリーと充電器の接続は確実ですか？	いったん各接続部をはずし、しばらく（3 分ほど）経ってから再度接続して充電してください。(→ P. 56)
充電器のインジケータは赤色に点灯していますか？	

転倒したとき

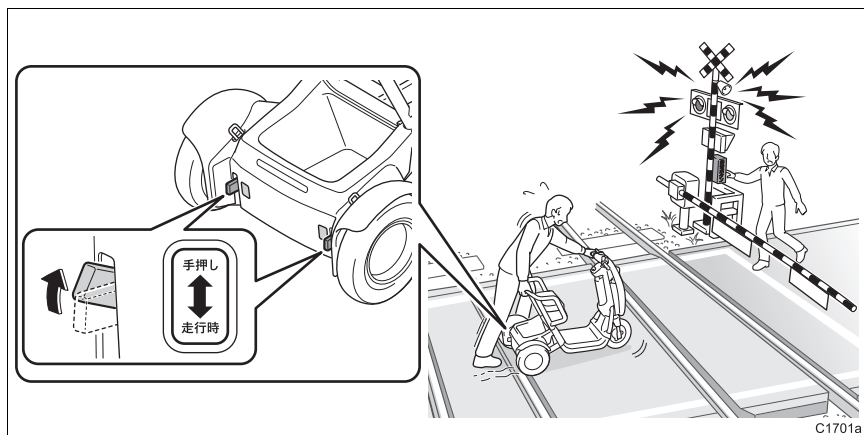
万一転倒してしまったときは、無理をせず、近くの人助けを借りてモビリティを起こしてください。モビリティを起こすときは、左右両方のハンドルを持ってモビリティを起こしてください。

破損や異常がある場合はモビリティの使用を中止し、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

踏切で動けなくなったとき

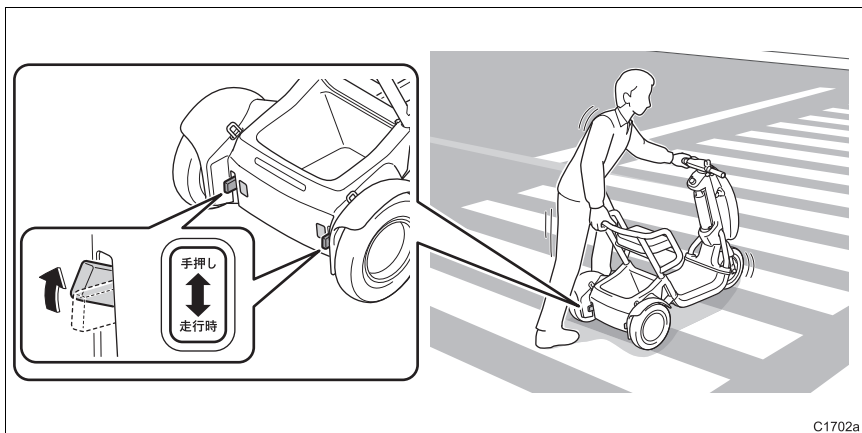
タイヤが線路のすきまにはまって動けなくなったときは、すぐに近くの人を呼んでください。モビリティから降りて電磁ブレーキ解除レバーを「手押し」の位置に切り替え、バックサポートを押して安全な場所へ移動してください。

万一、踏切内から脱出できない場合は、踏切に備え付けてられている非常ボタンを押してください。



横断歩道で動けなくなったとき

横断歩道で動けなくなったときは、すぐに近くの人を呼んでください。モビリティから降りて電磁ブレーキ解除レバーを「手押し」の位置に切り替え、バックサポートを押して安全な場所へ移動してください。



2 点検

2-1. 点検について	
点検の必要性.....	76
点検項目	77
2-2. 使用前点検	
使用前点検	80
使用前点検の記録.....	82
2-3. 1 年点検	
1 年点検	83
1 年点検の記録.....	85

点検の必要性

モビリティは多くの部品からなり、使用中に各部が摩耗したり、劣化したりします。

モビリティの点検には、毎日の使用前に実施する使用前点検と、購入から 1 年ごとに実施する 1 年点検があります。

安全に、末永くモビリティを使用するため、点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施してください。

点検で異常が見つかった際はお買い上げ販売店または取り扱い販売店に連絡をお願いします。

点検項目

点検項目	判定基準	使用前 点検	1 年点検
バッテリーの取り付け 状態	・ バッテリーを取り付けた状態 でがたつきがないこと ・ ロックがしっかりかかっ ていること	○	○
バッテリーの取りはず し	バッテリーを取りはずす際に、 引っかけがないこと	○	○
外装部品や 人が触れる部分 の状態	著しい傷や破損、 がたつきがないこと	○	○
タイヤの状態	・ 亀裂・損傷・異常な磨耗がな いこと ・ タイヤ接地部の溝の深さが 0.5mm 以上あること 0.5mm 未満になる前に販売 店へお問い合わせください。	○	○
電磁ブレーキの作動	電磁ブレーキ解除レバーが左 右共に「走行時」状態のとき、 手押ししても動かないこと	○	○
電磁ブレーキ解除レ バーの操作	・ 電磁ブレーキ解除レバーが 左右共に「手押し」状態のとき、 手押しして動くこと ・ 手押ししたとき、異音や引き ずりがないこと	○	○
手動ブレーキの効き具 合	電磁ブレーキ解除レバーを左 右共に「手押し」の状態でもビ リッティを押したとき、手動ブ レーキの効きが十分であるこ と	○	○
ブレーキレバーの引き 残り代	電磁ブレーキ解除レバーを左 右共に「手押し」にして、ブレー キレバーを引いてブレーキが 作動した状態（モビリティを押 しても動かない状態）で、ハン ドルとブレーキレバーにすき 間があること	○	○

点検項目	判定基準	使用前 点検	1 年点検
パーキングブレーキの作動	パーキングブレーキをかけ、ブレーキレバーが保持されること	○	○
アクセルレバーの状態	・ 引っかけりやもどり不良がないこと ・ アクセルの操作力が過大に必要でないこと	○	○
モビリティの起動状態	作動表示灯が点灯し、起動音が鳴ること	○	○
ハンドルの状態	がたつき・異音がないこと	○	○
速度切りかえダイヤルの作動	ダイヤルを回し引っかけりがないこと	○	○
ブレーキオーバーライドの作動	ブレーキレバーを引き、アクセルレバーまたはバックボタンを押したとき、モビリティが発進しないこと	○	○
前照灯の作動	点灯すること	○	○
バックボタンの作動	警告音が鳴りながら後退し、離すと停止すること	○	○
加速の状態	・ なめらかに加速すること ・ 走行時に突然止まらないこと	○	○
後輪(モーター)の状態	走行して異音がないこと	○	○
バッテリーの状態	外観の損傷・端子の変形・腐食・電解液の漏れがないこと	○	○
パーキングブレーキの効き具合	アスファルト路面(平地)にて、電磁ブレーキ解除レバーを左右共「手押し」にして、パーキングブレーキをかけたとき、モビリティを押し、タイヤがロックすること		○

点検項目	判定基準	使用前 点検	1 年点検
回生ブレーキの効き具合	前進の最高速度に達するまで走行し、アクセルレバーから手を放したとき基準の範囲内でモビリティが停止すること 基準値：1.5m（平坦舗装路にて速度約 6km/h からの停止距離）		○
旋回速度抑制機能の作動	最高値設定で、ハンドルをいっぱいに切った状態でアクセルレバーをいちばん奥まで操作しその場を旋回したとき、最高速にならないこと		○

使用前点検

点検は点検項目に記載されている使用前点検を行い、使用前点検記録（→ P. 82）に結果を記入します。

点検の結果、調整などの整備が必要な場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

使用前点検時のご注意

安全にご使用いただくため、ご使用前に必ず実施してください。

安全のためにまず読んでください

■ 点検の準備・場所

- 人や交通のさまたげになる場所では、絶対に行わないでください。周囲の安全を十分に確認しないと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 傾斜した場所では行わないでください。モビリティが動きけがをするおそれがあります。
- パーキングブレーキをかけてから行ってください。パーキングブレーキがかけられていないとモビリティが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
走行の際は、パーキングブレーキを解除してください。

 警告**■外装部品や人が触れる部分の状態**

著しい傷や亀裂にさわるとけがをするおそれがあります。
また、部品にがたつきがあると思われ事故につながるおそれがあります。
ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

■タイヤの状態

▲タイヤ付近に手を挟まれないように注意してください。

▲異常に摩耗したタイヤで走行するとスリップ事故など思われ事故につながるおそれがあります。

■手動ブレーキの効き具合

周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。

■ブレーキレバーの引き残り代

ブレーキワイヤーは消耗品です。ワイヤーの損傷や取り付けの緩みがあると、ブレーキの効き具合が悪くなって思われ事故につながるおそれがあり危険です。

■バックボタンの作動

周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。

■加速の状態／後輪（モーター）の状態

▲周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。

▲加速の状態が著しく悪い場合は、その状態で使用するとモビリティを損傷させるおそれがあります。ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

 注意**■モビリティの起動状態**

異音がある場合は、ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。その状態で使用するとモビリティを損傷させるおそれがあります。

使用前点検の記録

実施者（お客様等）が、「使用前点検記録」に記入します。

使用前点検記録

チェック記号

点検良好	レ
交換	×
修理	△

チェック記号			使用前点検項目																	
			バッテリーの取り付け状態／取りはずし	外装部品や人が触れる部分の状態	タイヤの状態	電磁ブレーキの作動	電磁ブレーキ解除レバーの操作	手動ブレーキの効き具合	ブレーキレバーの引き残り代	パーキングブレーキの作動	アクセルレバーの状態	モビリティの起動状態	ハンドルの状態	速度切りかえダイヤルの作動	ブレーキオーバーライドの作動	前照灯の作動	バックボタンの作動	加速の状態／後輪（モーター）の状態	バッテリーの状態	
実施日	年	月	日																	
	年	月	日																	
	年	月	日																	
	年	月	日																	
	年	月	日																	
	年	月	日																	
	年	月	日																	

1 年点検

点検は、使用前点検と、点検項目に記載されている 1 年点検を行い、1 年点検記録（→ P. 85）に結果を記入します。

点検の結果、調整などの整備が必要な場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

1 年点検時のご注意

安全にご使用いただくため、1 年ごとに必ず実施してください。

安全のためにまず読んでください

■ 点検の準備・場所

- 人や交通のさまたげになる場所では、絶対に行わないでください。周囲の安全を十分に確認しないと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 傾斜した場所では行わないでください。モビリティが動きけがをするおそれがあります。
- パーキングブレーキをかけてから行ってください。パーキングブレーキがかけられていないとモビリティが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
走行の際は、パーキングブレーキを解除してください。

**警告****■手動ブレーキの効き具合**

周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。

■電磁ブレーキの効き具合

▲周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。

▲ハンドルを直進状態にして、正しい運転姿勢で点検してください。

■旋回速度抑制機能の作動

▲周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。

▲ハンドルをしっかり握り、正しい運転姿勢で点検してください。
バランスを崩し、転倒するおそれがあります。

1 年点検の記録

実施者（お客様または点検を実施したお買い上げ販売店または取り扱い販売店）が、「1 年点検記録」に記入します。

1 年点検記録

チェック記号

点検良好	レ
交換	×
修理	△

実施日	年 月 日
実施者氏名	

2

点検

1 年点検項目

旋回速度抑制機能の作動	
回生ブレーキの効き具合	
電磁ブレーキの効き具合	
パーキングブレーキの効き具合	
バッテリーの状態	
加速の状態／後輪（モーター）の状態	
バックボタンの作動	
前照灯の作動	
ブレーキオーバーライドの作動	
速度切りかえダイヤルの作動	
ハンドルの状態	
モビリティの起動状態	
アクセルレバーの状態	
パーキングブレーキの作動	
ブレーキレバーの引き残り代	
手動ブレーキの効き具合	
電磁ブレーキ解除レバーの操作	
電磁ブレーキの作動	
タイヤの状態	
外装部品や人が触れる部分の状態	
バッテリーの取り付け状態／取りはずし	

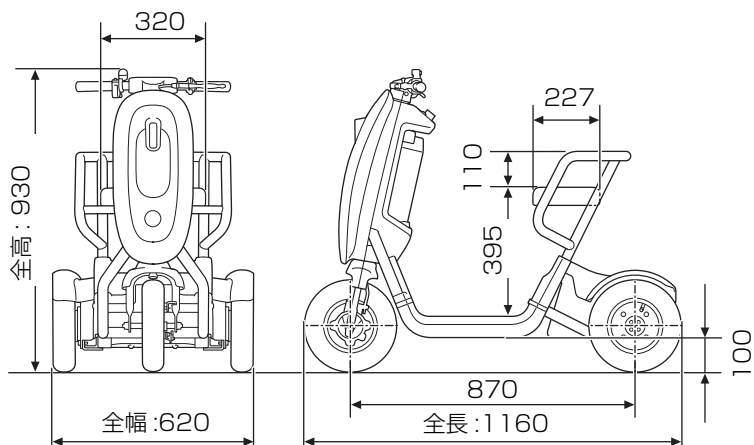
3 仕様

3. 仕様情報	
寸法	88
諸元	89

寸法

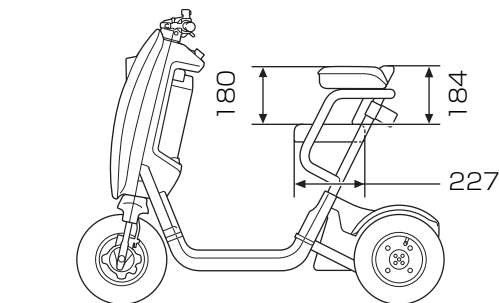
▶ 標準仕様

単位：mm



C3003

▶ 福祉仕様



C3004

知識

装備品の装着などにより、法令で定める移動用小型車の最大寸法（全長 1200 mm、全幅 700 mm、全高 1200 mm）を超えた状態で公道を走行する場合は、所轄の警察署へ申請をし、署長の確認が必要です。詳しくは、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

諸元

モビリティ

		Comove	
		標準仕様	福祉仕様
製造事業者の型式		CMV-020	CMV-021
サイズ	全長	1160mm	
	全幅	620mm	
	全高	930mm	
重量（バッテリー含む）		45kg	47kg
駆動モータ		DC24V 200W（後輪）×2 個（30 分定格出力） DC24V 330W（後輪）×2 個（最大出力）	
タイヤ	前輪	2.50-6 4PR ノーパンクタイヤ	
	後輪	2.50-6 4PR ノーパンクタイヤ	
駆動方式		後 2 輪直接駆動方式	
制動方式	前輪	手動内拡式ブレーキ	
	後輪	モータ発電制御&電磁ブレーキ	
操舵方式		ハンドルによる前輪操舵	
制御方式		アクセルレバーによるマイコン無段階電子制御方式	
シート構造		前後位置調整なし	
シート寸法	幅	320mm	
	奥行	227mm	
最高速度※1	前進	2 ～ 6km/h（無段階調整式）	
	後進	1km/h	
実用登降坂角度		10°	
連続走行距離※4		約 12km	
最小回転半径		920mm	
段差乗越高さ※2		50mm	
溝乗越幅※3		100mm	
適応気温		0℃～ 40℃	
身長制限		140cm ～ 185cm	
年齢制限		16 才以上	
使用者最大体重（積載物も含む）※5		100kg	

※1 JIS T9208:2016-11.1.1 の試験法による数値です。

- ※² JIS T9208:2016-11.1.7 の試験法による数値です。
- ※³ JIS T9208:2016-11.1.8 の試験法による数値です。
- ※⁴ 社内試験による数値です。
 常温、使用者体重 60kg、満充電のバッテリーで平坦な直線路を前進の最高速度設定で連続走行し、バッテリーが放電停止するまでの距離を示します。使用者の体重や路面状態により変化します。
- ※⁵ 使用者の体重・着衣および荷物の合計です。

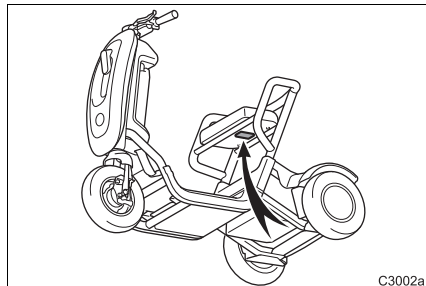
バッテリー（1 台あたり 1 個）

モデル（型式）		TCRD020703HT
電圧		25.2V
定格容量		10.5Ah
サイズ	高さ	260mm
	幅	Φ63±1mm
	重量	1.4kg
USB 出力		DC5V 1A(TYPE-A)
充電器（型式番号）		CH0651-2942000D
充電時間 ※ ⁶		約 4 時間

※⁶ バッテリーの温度などの条件により、充電完了までに必要な時間はかわりません。

車台番号

シート裏中央にあります。



静的安定性試験結果

JIS T 9208 : 2016 11.1.6 で定められた条件のもとでの数値です。

3

仕様
情報

項目		車輪ロックありの場合	
後方安定性		20°	
前方安定性		20°	
側方安定性	左側	後輪ロック	15°
	右側	後輪ロック	15°
最大角度は、規定値を上限とする。			

動的安定性試験結果

JIS T 9208 : 2016 11.1.14.1 で定められた条件のもとでの数値です。

評価項目	座位の状態
	最も不安定な状態
前向き段差の乗り上げ時における後方の動的安全性（最大段差高）	50mm
前向き段差の乗り上げ時における前方の動的安全性（最大段差高）	50mm
斜め段差降り時における側方の動的安全性（最大段差高）	50mm
試験条件：転倒防止装置無し、縁石乗り上げ装置なし、使用者体重 100kg	

4 さくいん

五十音順さくいん

五十音順さくいん

あ

アームサポート.....	6, 64
アクセルレバー.....	9
悪路.....	34

い

1 年点検時のご注意.....	83
1 年点検の記録.....	85
インジケーター.....	10

う

植込み型心臓ペースメーカー	18
運転姿勢	29
運搬するとき	64

え

エスカレーター.....	43
--------------	----

お

横断歩道で 動けなくなったときは	73
押し方	64
お手入れするとき	62

か

外観	6
改造	18
階段	43

き

キー	21
急斜面警告音	20

け

傾斜	36
携帯電話や通信機器を 利用するとき	31

警告音.....	20
----------	----

こ

降車するとき	28
後退時警告音	20, 45
後退時の速度	45
後退のしかた	45
交通機関や施設を利用するとき	31
後輪（駆動輪）.....	6
固縛	65

さ

最高速度.....	89
最小回転半径	89
サイズ.....	89, 90
最大速度.....	31
最大速度を設定する	31
坂道	36
坂道や傾斜に関するご注意.....	36
残量	30

し

シート	6
施設を利用するとき	31
実用登坂角度	89
自動減速機能	44
車台番号.....	91
斜面速度抑制音	20
充電完了の確認方法	57
充電器.....	10, 50
充電コネクター	10
充電時間.....	54, 90
充電する.....	56
充電するとき	55
充電に適した場所	54
充電方法.....	54
修理	18

重量	89
手動ブレーキ（緊急ブレーキ）	46
乗車するとき	27
乗車前の確認	26
使用前点検時のご注意	80
使用前点検の記録	82
使用前の点検	14
諸元	89
身長制限	89

す

ステップ	6
寸法	88

せ

静的安定性試験結果	91
積載限度	24
全高	89
前照灯	6, 22
前進のしかた	44
全長	89
全幅	89
前輪（操舵輪）	6

そ

走行距離	30
走行中の注意	41
走行の前に	29
走行練習するとき	58
装備	24
速度	31
速度切りかえダイヤル	9

た

体重制限	89
正しい運転姿勢	29
段差	35
段差上限	89

ち

駐車のしかた	47
--------------	----

つ

通信機器を利用するとき	31
杖ホルダー付き背もたれカバー	24

て

停止のしかた	46
手押し	48
手押しで移動するとき	60
適応気温	89
点検記録（使用前点検）	82
点検記録（1 年点検）	85
点検項目	77
電源スイッチ	8, 22
電源の ON/OFF	22
点検の準備・場所（使用前）	80
点検の準備・場所（1 年点検）	83
点検の必要性	76
電源を入れる	22
電源を切る	22
天候	34
天候や悪路に関するご注意	34
電磁ブレーキ解除レバー	8
電磁ブレーキの解除のしかた	48
電池残量表示 LED	10, 30
転倒したときは	71
電波がおよぼす影響	50

と

動的安定性試験結果	92
盗難	21
道路や歩道に関するご注意	32

は

パーキングブレーキ	47
パーキングブレーキノブ	9
廃棄	67
廃棄するとき	67
バックサポート	6
バックボタン	9
バッテリー	8, 10, 51, 90
バッテリー側充電コネクタ	10
バッテリー交換	31
バッテリー残量	30
バッテリー残量の確認	30
バッテリー残量の目安	30
バッテリーの故障	50
バッテリーの充電方法	54
バッテリーの種類	30
バッテリーの特徴	30
バッテリーの取扱い	49
バッテリーの取付け / 取外し	51
バッテリーの廃棄	67
反射板	8
ハンドル	8
ハンドル部	8, 9

ひ

ヒューズ	18
------------	----

ふ

踏切	38
踏切で動けなくなったときは	72
踏切に関するご注意	38
プラグ	10
ブレーキレバー	9, 46

へ

ペースメーカー	18
---------------	----

ほ

保管するとき	63
歩道に関するご注意	32

み

溝	35
---------	----

も

持ち上げ方	64
モビリティの押し方	64
モビリティの固縛	65
モビリティの持ち上げ方	64

ら

ラゲージ	6, 24
ラゲージネット固定フック	8, 24
ラベル	11

り

リサイクル	67
-------------	----

れ

連続走行距離	89
--------------	----

ろ

路面状況が悪い場合	34
-----------------	----

5 保証

5. 保証	
保証について.....	98
保証書	99
保証登録書	104

保証について

お買い上げいただきました製品は、豊田鉄工株式会社の厳しい品質管理のもとで製造されたものですが、万一、材料上あるいは製造上の不具合がありました場合には、保証書に示す条件にしたがって無料で修理させていただきます。

保証書

① 保証の内容

この保証は、保証登録書に記載されたお客様に対して、豊田鉄工株式会社（以下豊田鉄工といいます）の出荷時のモビリティに組付けられている部品に、材料上または製造上の不具合が発生した場合に、保証書に示す期間と条件に従って、これを無料修理すること（以下、この無料修理を保証修理といいます）をお約束するものです。

保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。

なお、この際に取り外した不具合部品は、豊田鉄工の所有となります。

② 保証修理の受け方

保証修理をお受けになる場合は、本書（保証登録書を含む）をご提示のうえお買い上げ販売店または取り扱い販売店に保証修理をお申しつけください。

本書（保証登録書を含む）をご提示されない時は、保証修理をお受けいたしかねます。

③ 保証の対象と期間

保証対象	保証期間
下記を除く全部品 ● 消耗部品および油脂類 ● タイヤ ● ブレーキワイヤー ● ブレーキシュー ● 豊田鉄工の出荷後、豊田鉄工以外の者が装着・架装した部品・架装物	お買い上げ日から 1 年間

④ お客様にお守りいただく事項

お客様のモビリティが、本書にしたがった正しい使用・管理がなされている場合に、保証いたします。

守られていない場合は、保証修理をお断りすることがありますので、ご承知おきください。

⑤ 保証しない事項

(1) 以下の現象等、不具合と認められないものは保証修理いたしません。

① 通常の使用損耗あるいは経年変化により発生する現象。

(消耗部品・油脂類の消耗・劣化等。
樹脂部品、塗装面の自然退色・劣化)

② 製品の機能に影響がないことが一般に認められている現象等。(音、振動、操作フィーリング等)

(2) 以下の不具合は外的要因によるものであり、材料上または製造上の不具合ではないため、保証修理いたしません。

① 飛石、酸性雨、塩害、鳥糞、薬品、鉄粉、煤煙、降灰等の外部要因に起因する不具合。

② 地震、台風、水害等の天災ならびに火災、事故に起因する不具合。

(3) 以下の不具合は、正しい使用・管理等がなされていないことに起因するものであるため保証修理いたしません。

① 通常の注意で発見・処置できたにもかかわらず、放置したことにより拡大した不具合。

② 保守もしくは整備上の不備または間違いに起因する不具合。

- ③ ご使用の過程で発生したボデーおよび内外装部品の傷・凹み等の不具合。
 - ④ 豊田鉄工の出荷後に、豊田鉄工以外の者が装着・架装した部品・架装物（保証修理時に交換部品として新たに装着された部品を除く）、および豊田鉄工以外の者による補修（保証修理としてなされた補修を除く）・改造に起因する不具合。
 - ⑤ 適切な豊田鉄工純正の消耗部品・定期交換部品あるいは豊田鉄工が指定する油脂類以外の使用に起因する不具合。
 - ⑥ 本書に示す取り扱い方法と異なる使用、不適切な保管、仕様の限度を超える過酷な使用に起因する不具合。
- (4) 保証修理以外に豊田鉄工が保証書に基づいて費用（例えば次のような費用）を負担することはいたしません。
- ① 消耗部品および油脂類の交換・補充費用。
 - ② モビリティを使用できなかったことによる不便さおよび損失等。
 - ③ お買い上げ販売店および取り扱い販売店以外での修理費用。
- (5) バッテリーに関して、次に示すものは保証修理いたしません。
- バッテリーの容量低下。（航続可能距離の減少）
- (6) 保証登録書のお買い上げ日、お客様名、販売店名が確認できない場合は保証修理いたしません。
- (7) 前記 **3** に示す保証期間を満了したとき、または日本国外に持ち出された場合は保証修理いたしません。

⑥ 保証登録書の再発行

保証登録書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

⑦ その他

この保証は、保証書に明示した保証期間・条件のもとに無料修理をお約束するものです。したがって保証期間経過後にお申し出のあった不具合修理は原則として有料です。ただしその不具合が使用損耗あるいは経年変化によるものではなく、その全部または一部が供給者側の責任に起因する場合は、責任の度合に応じ、適正な費用負担で修理いたしますので製造事業者にご相談ください。





CMV-020
CMV-021
初版 04-2025
第2版 10-2025
コモビ